

南米五カ国
日系老人生活実態に関する
アンケート調査報告
(業務資料No.541の附表)

昭和55年6月

国際協力事業団



国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 19	700
登録No. 00910	21.4
	EES

目 次

第 1 章 調査の規模	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	2
(1) 対象のとらえ方	2
(2) 時期の選び方	6
(3) 調査票とその書き方	6
第 2 章 調査対象のプロフィール	8
1. 日本国籍の保有	8
2. 移 住 期	8
3. 出 身 地	11
4. 家 族 構 成	13
5. 家庭内の地位	15
6. 本人の収入源	17
7. 移住国語の理解	21
8. 日本の親族	29
9. 世帯の規模	30
(1) 世帯構造	30
(2) 世帯人員	33
(3) 世帯業種	34
(4) 住居・居室	35
第 3 章 健康の状況	42
1. からだの具合	42
(1) 健康の意識	42
(2) 病気の有無	43
(3) 有病者治療方法	47
(4) 健康の保持増進方法	48
2. 日常生活の動作	50
(1) 歩行・食事・着脱衣・入浴・用便	50

(2) 視力・聴力・そしゃく力	50
(3) 主な介護者	51
3 食事の状況	57
4 医療保険の利用	57
第4章 就労の状況	59
1 収入の伴う仕事	59
(1) 就業・不就業	59
(2) 就業形態	59
2 就業者	59
(1) 職業の種類	59
(2) 就労時間	62
(3) 自営の規模	62
(4) 雇用者勤務先の規模	63
(5) 就業の継続意志	65
3 不就業者	67
(1) 仕事をやめた年齢	67
(2) 仕事をやめた理由	67
(3) 就業時の職業	67
第5章 家庭生活の状況	70
1. 子 ども	71
(1) 子どもの有無	71
(2) 同居の意識	71
(3) 同居の実際	71
2 家庭内の役割	72
3 家族からの相談	72
4 会話時のことば	80
5 子どもと別居	80
(1) 別居の理由	80
(2) 子どもとの交流	80
6 自由時間	82
7 交 友	83

(1) 近所づきあい	83
(2) 友人・知人	84
(3) 日本人会	85
8. 小遣い	86
9 信 仰	88
10 寂寥感（日頃の淋しさ）	88
11. 生きがいと悩み	89
(1) 生きがいの内容	89
(2) 悩みの内容	90
第6章 福祉制度の状況	95
1 老人ホーム入所希望	95
2 公的援助	97
(1) 政府・自治体からの公的援助	97
(2) 現地当該国に対する援助希望	98
3 日系団体の援助	98
(1) 日系団体からの援助	98
(2) 日系団体に対する援助希望	99
第7章 老後生活のあり方（まとめ）	103
1. 老後の生活設計	103
(1) その有無	103
(2) 考えた年代	103
(3) 具体的計画	103
(4) 生活設計と現実	103
2. 充実感と見通し	106
(1) これまでの充実感	106
(2) これからの見通し	107
(3) 現在の満足感	107
3 老後の生活責任	109
4. 日本で老後を過ごす意識	112
5 老後生活の希望	112
(1) 調査対象の全体像	112

(2) 老後生活の希望	113
あ と が き	123
(附 属 資 料) 昭 和 5 4 年 度 日 系 老 人 生 活 実 態 調 査 票	124

数 表

第 1 表	調査対象	4
第 2 表	日本国籍保有状況	9
第 3 表	移住期	10
第 4 表	出身地	12
第 5 表	家族構成(配偶関係)	14
第 6 表	家庭内の位置づけ	16
第 7 表	本人の収入源 1	19
第 8 表	本人の収入源 2(各国合計)	20
第 9 表	移住国語の理解程度 1	22
第 10 表	移住国語の理解程度 2(ペルー国 A 地域)	25
第 11 表	移住国語の理解程度 3(ボリビア国 A 地域)	25
第 12 表	移住国語の理解程度 4(ボリビア国 B 地域)	26
第 13 表	移住国語の理解程度 5(パラグアイ国 A 地域)	26
第 14 表	移住国語の理解程度 6(パラグアイ国 B 地域)	27
第 15 表	移住国語の理解程度 7(ブラジル国 A 地域)	27
第 16 表	移住国語の理解程度 8(ブラジル国 B 地域)	28
第 17 表	移住国語の理解程度 9(アルゼンチン国 A 地域)	28
第 18 表	日本の親族の有無と文通状況	29
第 19 表	世帯構造 1	31
第 20 表	世帯構造 2(各国合計)	31
第 21 表	世帯人員	33
第 22 表	世帯業種	34
第 23 表	世帯業種別住居所有状況	38
第 24 表	世帯業種別居室規模	39
第 25 表	世帯業種別居室状況	40
第 26 表	世帯業種別転居希望	41
第 27 表	健康状況 1(健康の意識)	44
第 28 表	健康状況 2(病気の有無)	46
第 29 表	健康状況 3(有病者治療方法)	49

第 3 0 表	健康状況 4 (健康の保持増進)	5 0
第 3 1 表	健康状況 5 (日常生活の動作 I - I)	5 2
第 3 2 表	健康状況 6 (日常生活の動作 I - II, 各国合計)	5 3
第 3 3 表	健康状況 7 (日常生活の動作 II - I)	5 4
第 3 4 表	健康状況 8 (日常生活の動作 II - II, 各国合計)	5 5
第 3 5 表	健康状況 9 (主な介護者)	5 6
第 3 6 表	健康状況 1 0 (食事の状況)	5 8
第 3 7 表	健康状況 1 1 (医療保険加入の有無)	5 8
第 3 8 表	就労状況 1 (収入の伴う仕事)	6 0
第 3 9 表	就労状況 2 (収入の伴う仕事, 各国合計)	6 1
第 4 0 表	就労状況 3 (職業の種類と就労時間・就業者について)	6 3
第 4 1 表	就労状況 4 (自営の規模)	6 4
第 4 2 表	就労状況 5 (雇用者勤務先の規模)	6 4
第 4 3 表	就労状況 6 (就業者の継続意志 I)	6 6
第 4 4 表	就労状況 7 (就業者の継続意志 II, 各国合計)	6 6
第 4 5 表	就労状況 8 (仕事をやめた年令等 I, 不就業者について)	6 8
第 4 6 表	就労状況 9 (仕事をやめた年令等 II, 各国合計, 不就業者について)	6 9
第 4 7 表	就労状況 1 0 (働いていた時の職業, 不就業者について)	6 8
第 4 8 表	家庭生活状況 1 (子どもの有無)	7 3
第 4 9 表	家庭生活状況 2 (同居の意識)	7 3
第 5 0 表	家庭生活状況 3 (子どもと同居)	7 4
第 5 1 表	家庭生活状況 4 (子どもと同居, 各国合計)	7 4
第 5 2 表	家庭生活状況 5 (家庭内の役割, 同居の場合)	7 6
第 5 3 表	家庭生活状況 6 (家庭内の役割, 同居の場合, 各国合計)	7 6
第 5 4 表	家庭生活状況 7 (家族からの相談・同居の場合)	7 7
第 5 5 表	家庭生活状況 8 (家族と会話時のことば・同居の場合)	7 8
第 5 6 表	家庭生活状況 9 (子どもと別居 I・別居の理由)	8 1
第 5 7 表	家庭生活状況 1 0 (子どもと別居 II・子どもとの交流)	8 1
第 5 8 表	家庭生活状況 1 1 (自由時間の過ごし方)	8 3
第 5 9 表	家庭生活状況 1 2 (近所の人との交際)	8 4
第 6 0 表	家庭生活状況 1 3 (友人・知人の有無)	8 5

第 6 1 表	家庭生活状況 1 4 (居住地区日本人会の有無)	8 6
第 6 2 表	家庭生活状況 1 5 (自由に使える小遣い)	8 7
第 6 3 表	家庭生活状況 1 6 (信仰)	8 7
第 6 4 表	家庭生活状況 1 7 (寂寥感～日頃の淋しさ)	8 8
第 6 5 表	家庭生活状況 1 8 (生きがい)	9 0
第 6 6 表	家庭生活状況 1 9 (生きがい・各国合計)	9 1
第 6 7 表	家庭生活状況 2 0 (悩みごと)	9 3
第 6 8 表	家庭生活状況 2 1 (悩みごと・各国合計)	9 3
第 6 9 表	家庭生活状況 2 2 (悩みごと具体例)	9 4
第 7 0 表	福祉制度 1 (老人ホーム入所希望)	9 6
第 7 1 表	福祉制度 2 (老人ホーム入所希望・各国合計)	9 7
第 7 2 表	福祉制度 3 (公的援助の状況)	1 0 0
第 7 3 表	福祉制度 4 (日系団体の援助)	1 0 1
第 7 4 表	老後の生活設計	1 0 5
第 7 5 表	人生の充実感と見通し	1 0 8
第 7 6 表	老後の生活責任	1 1 1
第 7 7 表	日本に帰り老後を過ごす意志	1 1 2
第 7 8 表	老後生活の希望 1 (各国合計)	1 1 5
第 7 9 表	老後生活の希望 2 (ベルギー国 A 地域)	1 1 6
第 8 0 表	老後生活の希望 3 (ボリビア国 A 地域)	1 1 7
第 8 1 表	老後生活の希望 4 (ボリビア国 B 地域)	1 1 8
第 8 2 表	老後生活の希望 5 (パラグアイ国 A 地域)	1 1 9
第 8 3 表	老後生活の希望 6 (パラグアイ国 B 地域)	1 2 0
第 8 4 表	老後生活の希望 7 (ブラジル国 A 地域)	1 2 1
第 8 5 表	老後生活の希望 8 (ブラジル国 B 地域)	1 2 2
第 8 6 表	老後生活の希望 9 (アルゼンチン国 A 地域)	1 2 2

図 表

図表 1	調査対象人数	5
図表 2	調査対象年齢群百分比（性別・各国合計）	5
図表 3	配偶関係（移住時と現在・各国合計）	15
図表 4	移住国語の理解程度 1（各国合計）	23
図表 5	移住国語の理解程度 2（各国合計・地域比較）	24
図表 6	世帯構造	32
図表 7	世帯業種	35
図表 8	健康の意識（各国合計）	45
図表 9	病気の有無と治療方法（各国合計）	49
図表 10	日常生活の動作Ⅰ（各国合計）	54
図表 11	日常生活の動作Ⅱ（各国合計）	56
図表 12	就業状況（各国合計）	62
図表 13	子どもと同居の意識と同居の実際（各国合計）	75
図表 14	子どもと同居の理由	75
図表 15	家族と会話時のことば・同居の場合（各国合計）	79
図表 16	子どもと別居の理由	82
図表 17	生きがい・悩みごと（各国合計）	92
図表 18	公的援助・団体援助の状況（各国合計）	102
図表 19	老後の生活設計（各国合計）	106
図表 20	人生の充実感と見通し（各国合計）	109
図表 21	老後の生活責任	111
図表 22	老後生活の希望ベスト 10（各国合計）	114

第 1 章 調査の規模

1 調査の目的

国際協力事業団は、在外日系老人福祉につき、現地の実態を把握し、補完対策の必要性等について具体的に立案するとともに、現地日系組織の活動を指導する目的で、老人問題調査専門家による下記の調査団を昭和 53 年、54 年の両年度にまたがり南米諸国に派遣した。

◎第 1 回調査団（予備調査）

調査事項

- 1 家庭訪問を通じ日系高令者の生活状況の把握
- 2 日系福祉団体による日系高令者援護対策の状況
- 3 調査国の高令者福祉対策の状況
- 4 外国系福祉団体による高令者援護対策の状況

訪問国

ペルー、アルゼンチン、ブラジル

調査の時期

昭和 54 年 1 月 10 日～2 月 3 日

参加者

田中 莊司（厚生省社会局老人福祉専門官）

富田 実（国際協力事業団生活環境課）

◎第 2 回調査団

調査・指導事項

- 1 老人の生活実態調査
- 2 現地諸制度の調査
- 3 日系福祉団体等の活動指導
- 4 老人クラブ等に於ける講演

訪問国

ペルー、ボリビア、パラグアイ、ブラジル、アルゼンチン

調査の時期

昭和 54 年 9 月 2 日～9 月 29 日

参加者

村田松男（全国老人クラブ連合会評議員）

鳥井雅晴（国際協力事業団生活環境課）

これらの調査報告書はそれぞれ印刷のうえ、すでに関係方面に配布したところであるが、第1回調査団の予備調査を受けて、第2回調査団において本格的に実施した生活実態調査については、集まった膨大な資料に統計上の処理を施し、集計、解析の過程を経て、ここに漸く脱稿し、報告する段階に達した。

この調査の目的は云うまでもなく、調査団派遣目的と全く等質のものであるが、念のため改めてその調査目的を述べるならば、第1回調査団報告書の冒頭の辞を再現すればよい。

すなわち「わが国の海外移住は、すでに一世紀以上に至る長い歴史を有しているだけに、どの移住先国での日系社会においても、老人問題が除々に顕在化しつつあると云われ、なかでも日系一世のうち本人の意志によるものではあるが、今日まで日本国籍のまま経済的、あるいは家庭的に生まれず、かつ言語コミュニケーションのハンディを持つという深刻な課題になりつつあると思料される」とあり、そのための実態把握を直接の目的とし、間接的には、日系社会の老人福祉推進に役立つ資料を提供するということである。

さらに第2回調査が指摘したボリビア、パラグアイでの日系社会における潜在的老人問題の実証もこの調査の大きな課題である。両国において老人問題が問題意識として余り表面化していないと日系社会自身が受けとめているかに見られるが、現に日系人口の高令化傾向が進んでいる現実の姿がある。たとえば、両国は昭和29年以降の戦後移住者が多く、したがって、移住人口が比較的若く、老人問題は存在しないとの考えが支配的であるなか、調査団が体験した現地指導者階層との意見交換、歴訪した老人家庭との接触等から、老後生活、あるいは壮年層の向老生活における孤独感という精神的事情、物理的事情を仲介する経済生活、健康生活、文化生活、家族生活、社会生活等に忍びよる各種の老人問題を察知することができる。老人問題の芽が数多く潜在しているというこの感触を実態調査によって統計的な裏付けが可能か。そういう期待もこの調査にかけようとするものである。

2 調査の方法

(1) 対象のとりえ方

次の条件を附し、現地の国際協力事業団（支部・事務所）に選択を一任した。

年令・昭和54年8月現在で、60才を下限とし、上限の制限はしない。

性別・男女の区別は自由とする

地域・都会地（A地域）、移住地（B地域）に分け、対象数の振り分けは現地の事情によるものとする。なお、都会地はその近郊を含む。

調査票の配布の回収の数

国名	配布	回収	回収率
ペルー（リマ事務所）	100	89	89.0
ボリビア（サンタ・クルス支部）	100	82	82.0
パラグアイ（アスンシオン支部）	100	93	93.0
ブラジル（サンパウロ支部）	130	116	89.2
ブラジル（ベレーン支部）	70	64	90.1
アルゼンチン（ブエノス・アイレス支部）	50	23	46.0
計	550	467	84.9

なおA・Bの地域別ではA地域298名（63.8%）、B地域169名（36.2%）で、都会地とその近郊地が多く、性別では男345名（73.9%）、女122名（26.1%）となっている。さらに年齢別で男女の振り分けをしてみれば、男は第1位74才～70才（30.4%）、第2位69才～65才（29.0%）、女は第1位64才～60才（29.5%）、第2位74才～70才（25.4%）で、これは現地一任の自由選択の結果であるため、これのみで南米の日系老人像を想定することは誤りであるとしても、この調査対象の年齢群が男女合わせて、74才～70才以下を中心としていることがわかる。（第1表・図表1-2）

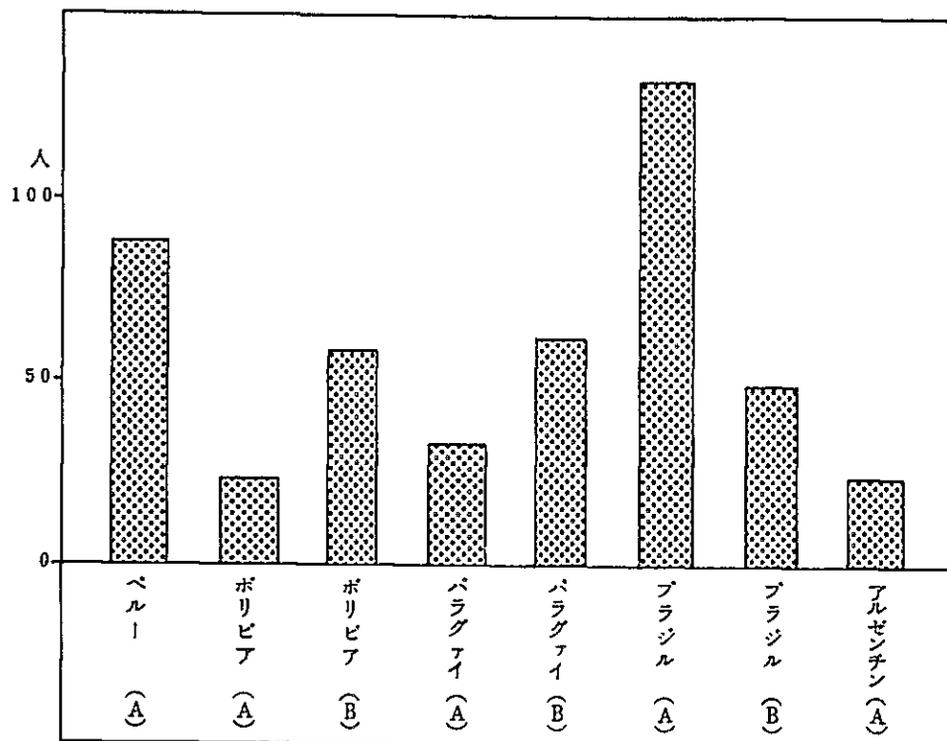
第1表 調査対象

国名	地域名	地域区分	性別	年 令 群					計
				80才以上	79～75	74～70	69～65	64～60	
ペルー	リマ	A	男	9	14	22	20	6	71
			女	3	3	3	6	3	18
			計	12	17	25	26	9	89
ホリビア	サンタクルス	A	男	1	1	3	3	5	13
			女	2	2	1	2	3	10
			計	3	3	4	5	8	23
ボリビア	オキナワ サンフアン	B	男	1	4	4	13	18	40
			女	1	3	5	3	7	19
			計	2	7	9	16	25	59
パラグアイ	エンカルナシオン アスンシオン	A	男	1	7	3	5	7	23
			女	—	2	3	—	4	9
			計	1	9	6	5	11	32
パラグアイ	チャベス アルトパラナ フラム	B	男	1	2	12	12	7	34
			女	3	1	10	3	10	27
			計	4	3	22	15	17	61
ブラジル	サンパウロ ベレーン ほか	A	男	9	20	41	25	7	102
			女	4	6	7	5	7	29
			計	13	26	48	30	14	131
ブラジル	アマゾニア ほか	B	男	4	8	12	13	4	41
			女	1	3	2	1	1	8
			計	5	11	14	14	5	49
アルゼンチン	ブエノスアイレス ほか	A	男	2	2	8	9	—	21
			女	1	—	—	—	1	2
			計	3	2	8	9	1	23
計	人 員	男	28	58	105	100	54	345	
		女	15	20	31	20	36	122	
		計	43	78	136	120	90	467	
	百 分 比	男	8.1	16.8	30.4	29.0	15.7	100	
		女	12.3	16.4	25.4	16.4	29.5	100	
		計	9.2	16.7	29.1	25.7	19.3	100	

注1. 地域区分～A＝都会地と近郊 B＝移住地（以下各表これにならう）

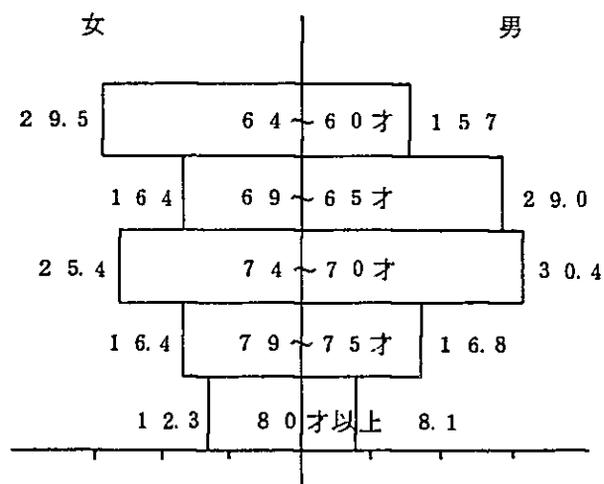
注2. 地域区分対象数～A地域298. B地域169

図表1 調査対象人数



A～都会地と近郊, B～移住地

図表2 調査対象年齢群百分比(性別・各国合計)



(2) 時期の選び方

第2回調査団が現地到着時点までに調査を終了するよう配慮した。これは調査団派遣日程の関係からその軽減をはかるためである。調査団はあらかじめ集められてある調査回答表をもとに、対象家庭の若干を訪問し、なまの声に触れることを考えたのである。

したがって、調査時期は次のようになる。

昭和54年8月から9月の間

ほとんどがこの方針により実施されたが、現地の都合から若干の未終了があり、これは調査団訪問時期後に完了した。

(3) 調査票とその書き方

調査票は第1回調査団が家庭訪問で聞き取り調査を行った予備調査票に若干の修正をしたものを使用した。その内容は次のようなものである。

I 調査対象のプロフィール(9項目)

- ① 日本国籍の保有
- ② 移住期
- ③ 出身地
- ④ 家族構成(移住地・現在)
- ⑤ 家庭内の地位
- ⑥ 本人の収入源
- ⑦ 移住国語の理解
- ⑧ 日本の親族
- ⑨ 世帯の規模

II 健康の状況(4項目)

- ① からだの具合
- ② 日常生活の動作
- ③ 食事の方法
- ④ 医療保険の利用

III 就労の状況(3項目)

- ① 収入の伴う仕事
- ② 就業者
- ③ 不就業者

IV 家庭生活の状況(14項目)

- ① 子 ども
- ② 子どもと同居
- ③ 家庭内の役割
- ④ 家族からの相談
- ⑤ 家族と会話することば
- ⑥ 子どもと別居
- ⑦ 自由時間の過ごし方
- ⑧ 交 友
- ⑨ 日本人会
- ⑩ 小 遣 い
- ⑪ 信 仰
- ⑫ 寂 寥 感
- ⑬ 生 き が い
- ⑭ 悩 み ご と

V 福祉制度の状況（3項目）

- ① 老人ホーム入所希望
- ② 公的援助
- ③ 日系団体の援助

VI 老後生活のあり方（5項目）

- ① 老後の生活設計
- ② 人生の充実感と見通し
- ③ 老後の生活責任
- ④ 日本で老後を過ごす意志
- ⑤ 老後生活の希望

以上、基本項目6、中心項目38、これらに属する質問事項82に及ぶ膨大な調査量である（調査票は報告書末尾に添付しておく）。

したがって、調査票の記入は自計式（対象者自身が記入する方法）と他計式（国際協力事業団現地職員と日本人会等の現地協力者による聞き取り記入方法）の併用により、調査の万全を期した。

しかし、対象者が広範な地域条件下にあるため調査趣旨がかならずしも対象者に浸透せず、調査項目中の未記入回答もあり、これはやむをえないものであった。

第 2 章 調査対象のプロフィール

1 日本国籍の保有

日本の国籍を保有する老人でありながら、その国の年金受給の道が開かれているブラジルにおいて、今回の調査である対象者と面接した折「暮らしていくうえで、日本国籍のままではいろいろ不便があるため、自分は帰化している」との述懐をえた。また、ペルーの三世との対談のなかで「日系老人は昔の味をそのまま持続している。これは良い面もある一面、この国に溶けこめないでいることについて日本人の評価を下けている」との発言にも接した。

しかし、国籍保有の老人のほとんどの意見は「海外に居ても日本人として誇りを持ち続けたい。そのため母国との精神的なつながりを絶やしたくないから」ということである。

この調査でもこのことを裏づけるように、各国共通して国籍保有者が圧倒的に多い。

(第 2 表)

ただし、第 1 回・第 2 回調査団が報告書のなかを示した日系人の日本国籍保有率(推定)は、ペルー 15.1% (70,118 人中, 10,618 人)、ボリビア 6.000 人中の現地出生者を除くほとんど、パラグアイ 7.050 人中の同じく現地出生者を除くほとんど、ブラジル 17.5% (77,850 人中 13,653 人)、アルゼンチン 50.1% (30,973 人中 15,484 人)であるので、ボリビア、パラグアイの戦後移住者が多い両国以外の 3 国とこの調査対象とは国籍保有率が合致しない。このことは、この 3 国日系人口のうち、国籍保有者の多くが老人層で占められている理由によるものと思われる。

2 移 住 期

第 2 回調査団に日系社会の発展のため尽しておられる一世の方が日本の移住政策について、次のようなことを話してくれた。

「南米移住は三つの形に分けて見ることができる。一つは日本が世界恐慌のあおりをかぶって大不況下にあった昭和 10 年前後、口べらしのため南米へ活路を求めて日本人を送り出した移民政策。これは貧乏移住である。二つは第二次大戦の敗北で日本人は海外発展への道を閉ざされ、狭い国土にひしめき合うことになった。人口問題を解決するため昭和 30 年前後に南米への移住が再開された。これはチンボウ移住である。(※チンボウとは男性のシンボル)。三つは 40 年代以降日本は高度成長をとげて、高い経済力とすぐれた技術が外国から期待され、希望者の移住が始まった。これは希望移住である。

以上、三つの移住の形を、われわれは 3 ボウ移住と言っている」

第2表 日本国籍保有状況

国名	地域区分	国籍保有者	年 令 群					計
			80才以上	79～75	74～70	69～65	64～60	
ペルー	A	調査対象	12	17	25	26	9	89
		うち 国籍保有者	12	17	24	21	8	82
		保有率	100	100	960	80.8	889	921
ポリビア	A	調査対象	3	3	4	5	8	23
		うち 国籍保有者	3	3	4	5	8	23
		保有率	100	100	100	100	100	100
ポリビア	B	調査対象	2	7	9	16	25	59
		うち 国籍保有者	2	7	9	16	25	59
		保有率	100	100	100	100	100	100
パラグアイ	A	調査対象	1	9	6	5	11	32
		うち 国籍保有者	1	9	6	5	11	32
		保有率	100	100	100	100	100	100
パラグアイ	B	調査対象	4	3	22	15	17	61
		うち 国籍保有者	4	3	22	15	17	61
		保有率	100	100	100	100	100	100
ブラジル	A	調査対象	13	26	48	30	14	131
		うち 国籍保有者	13	26	43	26	14	122
		保有率	100	100	895	866	100	931
ブラジル	B	調査対象	5	11	14	14	5	49
		うち 国籍保有者	4	11	13	14	4	46
		保有率	800	100	928	100	800	939
アルゼンチン	A	調査対象	3	2	8	9	1	23
		うち 国籍保有者	3	2	8	9	1	23
		保有率	100	100	100	100	100	100
計		調査対象	43	78	136	120	90	467
		うち 国籍保有者	42	78	129	111	88	448
		保有率	977	100	948	925	978	959

注 調査対象は男女を含む。以下各表これに同じ

この話は日本の移住政策の姿を言い得ているとしても、日系社会の成育歴は各国の事情によって違って来る。今回歴訪五カ国の中で、ペルー、ブラジル、アルゼンチンでは遠く明治、大正時代からの歴史があり、ボリビア、パラグアイは戦後移住者が大半を占めている。

第3表は調査対象者の移住期を調べたものであるが、今述べた各国の事情を浮き彫りにしてこれを証明している。とくにペルー、アルゼンチンでは若干の例外を除き、戦後後続移民の姿が見られない。しかし調査対象の全体像としては各国合計で、話にあった3ボウ移住のうちの貧乏移住とチンボウ移住の人びとがほどよく配置され、解析するうえで比較するのに便利である。

第3表 移 住 期

移住期	国名 地域区分	ペルー	ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
明治期		1	1	—	—	—	1	1	—	4	0.9
大正期		26	—	1	—	—	29	—	3	59	13.6
昭和 期	1年～5年	34	3	—	1	—	31	5	5	79	18.2
	6～10	11	1	—	1	—	26	4	10	53	12.2
	11～15	8	1	—	6	—	13	—	2	30	6.9
	16～20	—	2	—	1	—	—	—	2	5	1.1
	21～25	—	1	—	—	—	—	1	—	2	0.5
	26～30	2	4	7	4	15	13	16	—	61	14.0
	31～35	—	6	23	11	23	12	14	—	89	20.5
	36～40	—	1	21	1	19	5	2	—	49	11.2
	41年以降	—	—	—	—	—	1	3	—	4	0.9
未記入		7	3	7	7	4	—	3	1	32	—
計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100

3 出身地

第4表をみると、南米へは日本各地から移住していることがよくわかる。これを9地区に大別してその構成比をながめると次のようになる。

北海道	5.8%
東北	15.7%
関東	5.9%
中部	7.7%
近畿	6.8%
中国	8.4%
四国	8.5%
九州	24.7%
沖縄	16.5%

国別で目立つ出身地の主なものは、

ペルー	沖縄県, 熊本県, 福島県
ポリビア	沖縄県, 長崎県
パラグアイ	高知県, 北海道
ブラジル	福岡県, 福島県, 熊本県, 山口県
アルゼンチン	北海道

次に各国合計の都道府県別ベスト10を挙げておこう。

沖縄県	16.5%
熊本県	8.8%
福島県	6.6%
北海道	5.8%
福岡県	5.6%
高知県	4.9%
長崎県	4.7%
広島県	3.9%
山形県, 秋田県, 山口県	2.8%
和歌山県, 愛媛県, 鹿児島県	1.9%

このうち、第1位の沖縄県はほとんどがペルー、ポリビアに集中している。両国の移住期が主としてペルーの戦前、ポリビアの戦後であることに注目している。なお、ブラジルには日本各

第 4 表 出 身 地

出身県	国名 地域区分	ペルー	ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
北海道					3	11	6	2	5	27	5.8
東	青森						1	3		4	0.9
	岩手					7			1	8	1.7
北	宮城	1				5	3	3	1	13	2.8
	秋田				1		2	1		4	0.9
北	山形	3			1		3	6		13	2.8
	福島	14		1	2		8	5	1	31	6.6
関	茨城					1	2	1	1	5	1.1
	栃木	3					1			4	0.9
東	群馬				1		1		1	3	0.6
	埼玉	1					1			2	0.4
東	千葉				1		1		1	3	0.6
	東京都		1	2	2		3			8	1.7
中	神奈川県	1			1				1	3	0.6
	新潟						6		1	7	1.7
中	富山						1	1		2	0.4
	石川			1			2			3	0.6
部	福井			1						1	0.2
	山梨	2								2	0.4
部	長野	1			1		6			8	1.7
	岐阜			1						1	0.2
近	静岡県						8			8	1.7
	愛知				1		1			2	0.4
近	三重							2		2	0.4
	滋賀	1						1		2	0.4
畿	京都	1			2		3	1	1	8	1.7
	大阪		1				3	1		5	1.1
中	兵庫県						1	3	3	7	1.5
	和歌山			1	2		5		1	9	1.9
中	鳥取						1			1	0.2
	島根										
国	岡山	1	1	1			4			7	1.5
	広島	2			1	7	7	1		18	3.9
四	山口				1	1	10	1		13	2.8
	徳島			1						1	0.2
九	香川		1	1	1	1	2		1	7	1.5
	愛媛					6	2	1		9	1.9
州	高知				6	13	4			23	4.9
	福岡	5		4		3	11	3		26	5.6
州	佐賀	2	1			1	2			6	1.3
	長崎		1	12	2		3	4		22	4.7
州	熊本	19	1	1	4	2	7	5	2	41	8.8
	大分	2		1		1	3			7	1.5
州	宮崎						1	3		4	0.9
	鹿児島	2	1				5	1		9	1.9
沖	縄	28	15	32					2	77	16.5
計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100

地から満遍なく集まっているのもこの国の大きな特徴を示唆しているといえよう。

以上は、調査対象の出身地をみたということで、これで移住者の全体を語ることにはならないものの、全体像を想像するうえでは大いに役立つものと考えられる。

4 家族構成

第5表・図表3は、移住時の家族構成がどうであったか、それが現在どう変化したか、という血縁関係の流れを語ってくれる。各国合計で総体的にみると、移住時では独身であったもの32.7%（男29.1%、女36%）、配偶者のあるもの67.3%であるから、独身者が $\frac{1}{3}$ 、世帯持ちが $\frac{2}{3}$ ということである。なお、世帯持ちには夫婦だけのもの $\frac{1}{5}$ 、あとの $\frac{4}{5}$ が子持ちである。とくに4人以上の子持ちが目立って多い。

これが幾星霜を経た現在、有配偶者69.8%（男58.9%、女10.9%）、独身者30.2%（男15.0%、女15.2%）で、比率のうえではさほどの変化はないように見えるが、その内容には大きな変化が秘められている。

すなわち、移住時独身者の多くが結婚したことは容易に想像できることで、現在の有配偶者のなかへこれらが仲間入りをした上で、当時の有配偶者を含めて配偶者死別などの理由から、新しい独身者が生まれたということである。

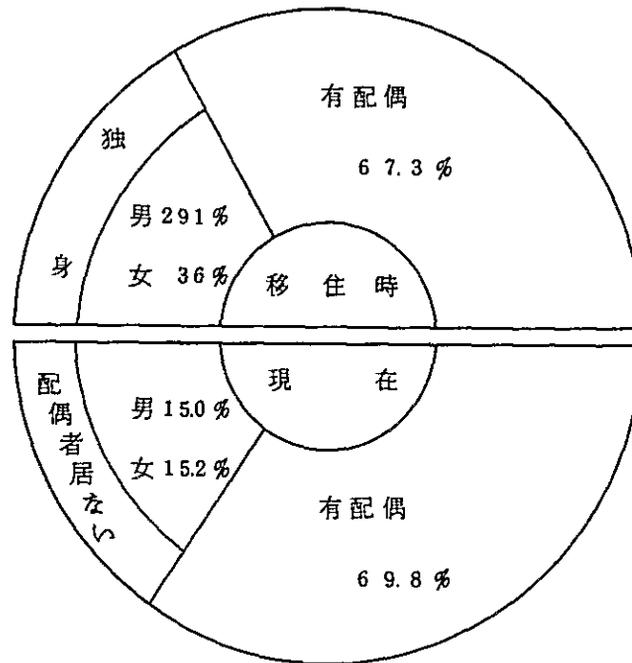
これは移住時の独身者で男が圧倒的に多かったのであるが、現在の男女の比率が、男半分、女半分とほとんど変りがないということからも、これを理由づけられる。

そこで、移住時の統計からは、新天地へ挑む意気込みを、現在の統計からは、老後生活のわびしさ（顕在するもの、潜在するものを問わず、だれもが受けとめねばならない宿命といえるもの）を想像することができよう。

第5表 家族構成（配偶関係）

家族構成		地名区分		ペルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計		
		A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	人数	百分比			
移住時	独身	男	51	6	4	3	—	43	5	17	—	129	29.1			
		女	1	2	1	—	—	11	—	1	—	16	3.6			
		小計	52	8	5	3	—	54	5	18	—	145	32.7			
	有配偶	妻（夫）	23	13	51	28	60	75	44	5	—	299	67.3			
		子供の数	ない	(16)	(1)	(4)	(9)	(—)	(17)	(11)	(4)	(—)	(62)	(14.0)		
			1	(2)	(—)	(6)	(2)	(2)	(6)	(3)	(1)	(—)	(22)	(5.0)		
			2	(—)	(1)	(3)	(4)	(10)	(10)	(7)	(—)	(—)	(35)	(7.8)		
			3	(3)	(7)	(12)	(2)	(6)	(11)	(2)	(—)	(—)	(43)	(9.6)		
			4人以上	(2)	(4)	(26)	(11)	(42)	(31)	(21)	(—)	(—)	(137)	(30.9)		
	小計	(23)	(13)	(51)	(28)	(60)	(75)	(44)	(5)	(—)	(299)	(67.3)				
その他	14	2	3	1	1	2	—	—	—	—	23	—				
計	89	23	59	32	61	131	49	23	—	—	467	100				
現在者	配偶男	あり	55	12	26	14	29	87	34	18	—	275	58.9			
		なし	16	1	14	9	5	15	7	3	—	70	15.0			
		小計	71	13	40	23	34	102	41	21	—	345	73.9			
	配偶女	あり	8	2	11	5	10	11	4	—	—	51	10.9			
		なし	10	8	8	4	17	18	4	2	—	71	15.2			
		小計	18	10	19	9	27	29	8	2	—	122	26.1			
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	—	—	467	100			

図表3 配偶関係（移住時と現在・各国合計）



5 家庭内の地位

対象者が家庭内でどのような地位にあるか、これを知ることで、家庭生活の安定感がある程度さぐりえられよう。そこで設問を「世帯主」「生計中心者」に分けて答を求めた。（第6表）

さて、その結果としてA地域（都会地とその周辺）とB地域（営農中心の移住地）の間に違いのあることがわかった。たとえばA地域のペルー、アルゼンチンでは、対象者である老人群が世帯主、生計中心者として高率を占め、B地域のブラジル（A地域以外）、パラグアイ（A地域以外）では後輩世代の過半数がそれを支えている。第一線でまだがんばろうといった都会地と、労働力にまさる後継者に委ねて、これを見守る営農地の老人の姿が容易に想像できる。また、これらの中間としてブラジル（A地域）、ポリビア（A・B地域）のような新旧世代交替の過渡期と思われるものもある。

第6表 家庭内の位置づけ

国名	地域区分	家庭内の位置づけ		年 令 群					計	
				80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比
ペルー	A	世帯主	はい	4	11	20	18	8	61	68.5
			いいえ	8	6	5	8	1	28	31.5
		生計中心者	はい	2	11	21	16	8	58	65.2
			いいえ	10	6	4	10	1	31	34.8
ボリビア	A	世帯主	はい	—	1	3	3	6	13	56.5
			いいえ	3	2	1	2	2	10	43.5
		生計中心者	はい	—	1	3	3	6	13	56.5
			いいえ	3	2	1	2	2	10	43.5
ボリビア	B	世帯主	はい	—	3	3	10	16	32	54.2
			いいえ	2	4	6	6	9	27	45.8
		生計中心者	はい	—	3	3	8	12	26	44.1
			いいえ	2	4	6	8	13	33	55.9
パラグアイ	A	世帯主	はい	—	5	3	3	6	17	53.1
			いいえ	1	4	3	2	5	15	46.8
		生計中心者	はい	—	1	1	1	5	8	25.0
			いいえ	1	8	5	4	6	24	75.0
パラグアイ	B	世帯主	はい	—	1	5	3	5	14	23.0
			いいえ	4	2	17	12	12	47	77.0
		生計中心者	はい	—	—	3	4	4	11	18.0
			いいえ	4	3	19	11	13	50	82.0
ブラジル	A	世帯主	はい	4	10	25	19	9	67	51.1
			いいえ	9	16	23	11	5	64	48.9
		生計中心者	はい	2	7	19	16	7	51	38.9
			いいえ	11	19	29	14	7	80	61.1
ブラジル	B	世帯主	はい	—	1	8	6	3	18	36.7
			いいえ	5	10	6	8	2	31	63.3
		生計中心者	はい	—	1	8	4	2	15	30.6
			いいえ	5	10	6	10	3	34	69.4
アルゼンチン	A	世帯主	はい	3	2	8	8	1	22	95.7
			いいえ	—	—	—	1	—	1	4.3
		生計中心者	はい	2	2	7	6	1	18	78.3
			いいえ	1	—	1	3	—	5	21.7
計		世帯主	はい	11	34	75	70	54	244	52.2
			いいえ	32	44	61	50	36	223	47.8
		生計中心者	はい	6	26	65	58	46	201	43.0
			いいえ	37	52	71	62	44	266	57.0

6 本人の収入源

老後生活を不安におとしいれる元凶として、世界共通のものは、経済力の衰退、健康の老化、人間関係の疎外、である。

生活を守る経済力のおちこみも、諸活動の源泉である心とからだのふけこみも、家族や地域の入びとのふれあいが遠のくことも、一般的には老後生活の宿命として、だれもがこれを受けとめることになる。したがって、この三元凶から脱れる方法を老人自身と、これをとりまく家族、地域社会、さらに政治、行政の立場から考え、効果的に実施する努力が必要なのである。

本調査はこのこととあとで詳しくふれて行くことにするが、まずここでは対象者のプロフィールを、経済力の面から、本人の収入源の状態について明らかにしたい。

さて、本人の収入源を第7表では国別に、第8表では年齢群別にみた。第7表の各国合計は「収入源ある」が「ない」を男は上廻り、女は下廻っている。とくに第8表の年齢群別にみると、男の場合、各年齢群ともに「ある」が「ない」を大きく上廻り、経済生活面での男の意気込みみたいなものが感じとれる。

このうち、主な収入源は男の場合も女の場合も就労が第1位を占め、第2位以下を大きく引き離している。いずれ、このことについては第4章就労の状況で述べることにする。第2位は男女ともに年金収入である。率のうえでは就労の $\frac{1}{2}$ 程度であるものの、収入源としてこれも貴重なものといえよう。ただし、年金についての回答の内容はいろいろで、たとえば、ブラジルアルゼンチンのようにその国社会保障としての国家年金制度によるもの、またボリビア、パラグアイなどにみられた日本の厚生年金、旧軍人に関わる軍人恩給、軍人遺家族扶助料等がある。

なお、収入源の月額については、調査票設問事項として回答を求めたのであるが、記入の不備や未記入が多く、統計資料として正当性を欠くおそれがあるため、正確に回答を寄せられた対象者各位には申し訳けないが、製表はさしひかえることとする。しかし、それらのうちから補正しうる回答をできる限り補正し、その結果として月額額のあらましが想定できるものとして、次の資料を紹介しておこう。

収入源の月額 I (ボリビア)

～ 1人当り百分比～

	A 地域	B 地域
5,000ペソ以下	167%	541%
5000～10,000	500	8.1
10,000ペソ以上	333	378

注、生活水準(都市部中流)～家持ち5人家族9,300ペソ程度。

農村部(B地域)はその $\frac{2}{3}$ 程度

収入源の月収額Ⅱ（ブラジル）

～ 1人当たり百分比～

	A 地域	B 地域
1,000クロゼイロ以下	13.9%	3.6%
1,000～5,000	35.4	53.6
5,000～10,000	25.3	32.1
10,000クロゼイロ以上	25.4	10.7

注、生活水準（サンパウロ市）～家持ち5人家族8,500クロゼイロ程度。

農村部はその $\frac{2}{3}$ 程度。

以上2例から、対象者の収入源を、生活水準を中心として、

- ① それに不足するもの
- ② それに見合うもの
- ③ それに上廻るもの

に分けて眺めてみると、ボリビアはA地域ではやや②に近く、B地域では①に多く、ブラジルはA地域B地域ともに①が目立っている。

要するに、収入源は生活するうえでの貴重な資源であるとしても、それのみではおよそ不足するケースが多いという現実が発見できるのである。ただし、水準にあるもの、さらにそれを上廻る対象もあることに、敬意を表しておきたい。

第7表 本人の収入源1

収入源	地域区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
男	ある	ない	13	4	9	9	17	29	9	—	90	268
		ある	55	9	31	13	17	71	29	21	246	732
		未記入	3	—	—	1	—	2	3	—	9	—
		計	71	13	40	23	34	102	41	21	345	100
	あるの内訳	就労	48	10	35	9	17	25	24	5	173	611
		年金	7	1	4	3	3	43	15	14	90	318
		その他	—	—	—	5	—	10	—	5	20	71
		未記入	—	—	—	—	—	—	—	2	2	—
		小計	55	11	39	17	20	78	39	26	285	100
	女	ある	ない	11	6	10	5	13	15	6	—	66
ある			7	4	9	4	4	14	1	1	44	400
未記入			—	—	—	—	10	—	1	1	12	—
計			18	10	19	9	27	29	8	2	122	100
あるの内訳		就労	7	2	9	1	4	5	1	—	29	580
		年金	—	2	—	1	1	10	1	1	16	320
		その他	—	—	—	2	—	2	—	1	5	100
		未記入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		小計	7	4	9	4	5	17	2	2	50	100

注 「あるの内訳」は重複回答あるため「ある」の数字と一致しない。

第8表 本人の収入源2（各国合計）

収入源		年 令 群					計	
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60		
男	ない	12	18	33	17	10	90	
	ある	16	38	71	77	44	246	
	未記入	—	2	1	6	—	9	
	計	28	58	105	100	54	345	
	あるの内訳	就 労	3	22	46	60	42	173
		年 金	13	21	30	18	8	90
		そ の 他	1	1	9	8	1	20
		未 記 入	—	—	2	—	—	2
		小 計	17	44	87	86	51	285
	女	ない	9	15	12	13	17	66
ある		6	5	12	7	14	44	
未記入		—	—	7	—	5	12	
計		15	20	31	20	36	122	
あるの内訳		就 労	3	2	4	7	13	29
		年 金	6	3	4	1	2	16
		そ の 他	1	—	2	2	—	5
		未 記 入	—	—	—	—	—	—
		計	10	5	10	10	15	50

注、「あるの内訳」は重複回答あるため「ある」の数字と一致しない。

7 移住国語の理解

各国を歴訪して痛感したことの一つは、日系社会での老人と、それをとりまく家族、近隣の間で、母国語と現地語の関係が大きな問題となっているということである。

まず、第2回調査団報告からことばについての記事を紹介しておく。

ペルー・リマ市

日系大学生協会有志と調査団との座談会より、若い立場からの老人像として、たとえば話しかけても一世にことばが満足に通じない。したがってことばが壁となって同じ家庭内でも、意志の疎通をはかることが困難である(三世)。

ボリビア・オキナワ移住地

ことばの問題は、学校で積極的に日本語教育を取り入れる必要がある(コロニア農牧総合組合幹部)

パラグアイ・アルトバラナ移住地

ことばは今さら覚えても覚えきれものではない。入植した頃永住する決心がついていたら勉強していたと思う。なんといっても日本語がくらす上で一番頼りになる。だから、日本の本で母国の様子も知りたいし、小説なども読んでみたい。日本の活字に非常に飢えている(1県出身70才男性)

ブラジル・サンパウロ市

娘2人居るが2人とも日系人にとついでいる。孫は4人居るが日本語ができる。一家中が仲良く暮らしているのでなんの心配もなく、老後を送っている。孫は友人とは現地語でべらべらやっているが、自分には気をつけて日本語で話しかけてくる(出身県不明68才女性)

アルゼンチン・ブエノスアイレス市

半世紀以上の努力を積み重ねて、この国に日本人の信用の基礎をつくった先輩たちで、伴侶を失くした人、子どもから離れた人、その他気の毒な境遇の人たちに、日本人として心置きなく休養できる場所、母国語で自由に話し合える場所を提供したい(高令者福祉センター建設委員会幹部)

このほか、ことばについての意見、述懐は、各地でたくさん聞くことができた。

第9表~第17表、図表4~5は、これらの集計結果である。まず統計数字を「できる」、
「できない」に大別して各国合計にまとめると、次のようになる。

読むこと	できる	533%	できない	467%
書くこと	できる	537%	できない	463%
話すこと	できる	667%	できない	333%

できるとは、「よくできる」と「まあできる」の合計

できないとは「ほとんどできない」と「まったくできない」の合計

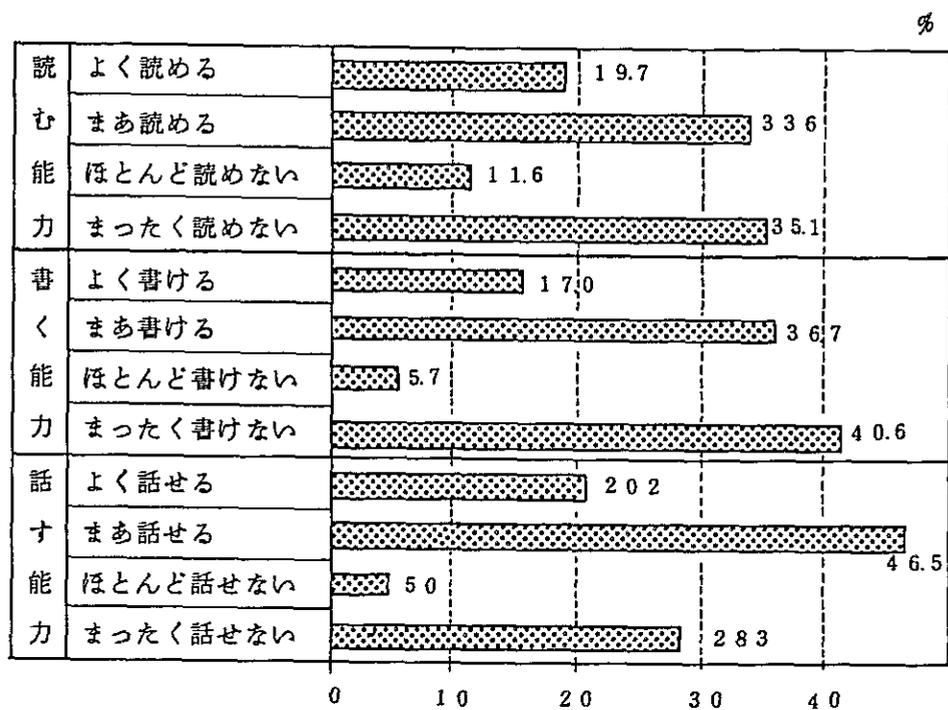
これで見れば、読み、書きは「できる」が「できない」をやや上廻る程度だが、話すことは「できる」が全体の $\frac{2}{3}$ を占めていることがわかる。語学履修には今さら老令の身でという消極さがあっても、日常生活の必要にせまられ、自然にある程度のものが身につくということなのであろうか。これは話すことが読み、書きを上廻っていることから推察されよう。

生活上の必要性がそうさせるということは、図表5にもその表われをみることができる。これはA地域とB地域での比較を図に示したものであるが、密着した現地の人との接触を条件とする都会地とその周辺地(A地域)は、営農を主とするB地域・大自然を相手とし、接触する人間は移住者仲間の日本人同志、これに必要なに応じて現地人といった環境では、ことばの対応の必要性がたいへん異なるものと思われる。その答が図にあらわれているといえよう。すなわち、読む能力、書く能力、話す能力、ともにA地域がB地域に優っている。各国ごとの状況は第10表～第17表にあらわしておいたので、目を通してほしい。

第9表 移住国語の理解程度1

理解能力	国名 地域区分	ペルー			ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比			
読む能力	よく読める	31	6	2	11	3	26	4	7	90	19.7			
	まあ読める	45	5	12	5	4	56	15	12	154	33.6			
	ほとんど読めない	6	3	2	5	3	18	13	3	53	11.6			
	まったく読めない	3	9	42	10	51	30	16	—	161	35.1			
	未記入	4	—	1	1	—	1	1	1	9	—			
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100			
書く能力	よく書ける	27	5	—	9	1	24	4	8	78	17.0			
	まあ書ける	50	5	15	7	8	61	14	9	169	36.7			
	ほとんど書けない	4	—	1	3	—	9	5	4	26	5.7			
	まったく書けない	4	13	42	13	52	37	25	1	187	40.6			
	未記入	4	—	1	—	—	—	1	1	7	—			
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100			
話す能力	よく話せる	26	6	4	14	5	26	4	7	92	20.2			
	まあ話せる	50	11	26	7	9	76	19	14	212	46.5			
	ほとんど話せない	4	2	1	3	2	9	1	1	23	5.0			
	まったく話せない	1	4	27	8	45	20	24	—	129	28.3			
	未記入	8	—	1	—	—	—	1	1	11	—			
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100			

図表4 移住国語の理解程度1（各国合計）



第10表 移住国語の理解程度2(ペルー国A地域)

理解能力		年 令 群					計	
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比
読む能力	よく読める	2	3	11	12	3	31	36.5
	まあ読める	5	10	13	12	5	45	52.9
	ほとんど読めない	3	1	—	1	1	6	7.1
	まったく読めない	1	1	—	1	—	3	3.5
	未記入	1	2	1	—	—	4	—
	計	12	17	25	26	9	89	100
書く能力	よく書ける	2	3	9	11	2	27	31.8
	まあ書ける	5	9	15	14	7	50	58.8
	ほとんど書けない	2	2	—	—	—	4	4.7
	まったく書けない	2	1	—	1	—	4	4.7
	未記入	1	2	1	—	—	4	—
	計	12	17	25	26	9	89	100
話す能力	よく話せる	2	3	6	11	4	26	32.1
	まあ話せる	7	11	18	9	5	50	61.7
	ほとんど話せない	1	2	—	1	—	4	4.9
	まったく話せない	—	—	—	1	—	1	1.3
	未記入	2	1	1	4	—	8	—
	計	12	17	25	26	9	89	100

第11表 移住国語の理解程度3(ボリビア国A地域)

理解能力		年 令 群					計	
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比
読む能力	よく読める	—	1	2	3	—	6	26.1
	まあ読める	—	—	—	1	4	5	21.7
	ほとんど読めない	1	—	—	1	1	3	13.0
	まったく読めない	2	2	2	—	3	9	39.2
	未記入	—	—	—	—	—	—	—
	計	3	3	4	5	8	23	100
書く能力	よく書ける	—	1	1	3	—	5	21.7
	まあ書ける	—	—	1	—	4	5	21.7
	ほとんど書けない	—	—	—	—	—	—	—
	まったく書けない	3	2	2	2	4	13	56.6
	未記入	—	—	—	—	—	—	—
	計	3	3	4	5	8	23	100
話す能力	よく話せる	—	1	1	4	—	6	26.1
	まあ話せる	2	—	3	—	6	11	47.8
	ほとんど話せない	1	—	—	1	—	2	8.7
	まったく話せない	—	2	—	—	2	4	17.4
	未記入	—	—	—	—	—	—	—
	計	3	3	4	5	8	23	100

第12表 移住国語の理解程度4（ポリビア国B地域）

理解能力		年 令 群					計	
		80才以上	79～75	74～70	69～65	64～60	人 数	百分比
読 む 能 力	よく読める	—	—	—	1	1	2	3.5
	まあ読める	—	—	1	4	7	12	20.6
	ほとんど読めない	—	—	—	—	2	2	3.5
	まったく読めない	2	7	7	11	15	42	72.4
	未 記 入	—	—	1	—	—	1	—
	計	2	7	9	16	25	59	100
書 く 能 力	よく書ける	—	—	—	—	—	—	—
	まあ書ける	—	—	1	5	9	15	25.9
	ほとんど書けない	—	—	—	—	1	1	1.7
	まったく書けない	2	7	7	11	15	42	72.4
	未 記 入	—	—	1	—	—	1	—
	計	2	7	9	16	25	59	100
話 す 能 力	よく話せる	—	—	—	2	2	4	6.9
	まあ話せる	—	3	2	7	14	26	44.8
	ほとんど話せない	—	—	—	—	1	1	1.7
	まったく話せない	2	4	6	7	8	27	46.6
	未 記 入	—	—	1	—	—	1	—
	計	2	7	9	16	25	59	100

第13表 移住国語の理解程度5（パラグアイ国A地域）

理解能力		年 令 群					計	
		80才以上	79～75	74～70	69～65	64～60	人 数	百分比
読 む 能 力	よく読める	—	3	4	1	3	11	35.5
	まあ読める	—	1	1	2	1	5	16.1
	ほとんど読めない	1	2	—	1	1	5	16.1
	まったく読めない	—	3	1	1	5	10	32.3
	未 記 入	—	—	—	—	1	1	—
	計	1	9	6	5	11	32	100
書 く 能 力	よく書ける	—	1	3	1	4	9	28.1
	まあ書ける	—	2	2	2	1	7	21.9
	ほとんど書けない	1	1	—	—	1	3	9.4
	まったく書けない	—	5	1	2	5	13	40.6
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	1	9	6	5	11	32	100
話 す 能 力	よく話せる	—	3	4	1	6	14	43.7
	まあ話せる	—	2	—	2	3	17	21.9
	ほとんど話せない	1	—	—	—	2	3	9.4
	まったく話せない	—	4	2	2	—	8	25.0
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	1	9	6	5	11	32	100

第14表 移住国語の理解程度6（パラグアイ国B地域）

理解能力	年 令 群					計		
	80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比	
読む能力	よく読める	—	—	1	2	—	3	4.9
	まあ読める	—	—	2	1	1	4	6.6
	ほとんど読めない	—	2	—	—	1	3	4.9
	まったく読めない	4	1	19	12	15	51	83.6
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	4	3	22	15	17	61	100
書く能力	よく書ける	—	—	—	1	—	1	1.6
	まあ書ける	—	—	3	4	1	8	13.1
	ほとんど書けない	—	—	—	—	—	—	—
	まったく書けない	4	3	19	10	16	52	85.3
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	4	3	22	15	17	61	100
話す能力	よく話せる	—	—	2	3	—	5	8.2
	まあ話せる	—	1	1	2	5	9	14.8
	ほとんど話せない	—	—	—	—	2	2	3.3
	まったく話せない	4	2	19	10	10	45	73.7
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	4	3	22	15	17	61	100

第15表 移住国語の理解程度7（ブラジル国A地域）

理解能力	年 令 群					計		
	80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比	
読む能力	よく読める	4	8	5	5	4	26	20.0
	まあ読める	4	4	23	18	7	56	43.1
	ほとんど読めない	—	3	7	5	3	18	13.8
	まったく読めない	5	11	12	2	—	30	23.1
	未 記 入	—	—	1	—	—	1	—
	計	13	26	48	30	14	131	100
書く能力	よく書ける	4	7	5	4	4	24	18.3
	まあ書ける	2	5	26	21	7	61	46.6
	ほとんど書けない	—	—	4	3	2	9	6.9
	まったく書けない	7	14	13	2	1	37	28.2
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	13	26	48	30	14	131	100
話す能力	よく話せる	4	7	6	3	6	26	19.8
	まあ話せる	6	12	29	23	6	76	58.0
	ほとんど話せない	1	—	4	2	2	9	6.9
	まったく話せない	2	7	9	2	—	20	15.3
	未 記 入	—	—	—	—	—	—	—
	計	13	26	48	30	14	131	100

第16表 移住国語の理解程度8(ブラジル国B地域)

理解能力		年 令 群					計	
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比
読む能力	よく読める	—	1	2	1	—	4	8.3
	まあ読める	2	3	1	8	1	15	31.3
	ほとんど読めない	—	4	6	2	1	13	27.1
	まったく読めない	3	3	5	3	2	16	33.3
	未記入	—	—	—	—	1	1	—
	計	5	11	14	14	5	49	100
書く能力	よく書ける	—	1	2	—	1	4	8.3
	まあ書ける	1	4	1	8	—	14	29.2
	ほとんど書けない	—	—	1	1	3	5	10.4
	まったく書けない	4	6	10	5	—	25	52.1
	未記入	—	—	—	—	1	1	—
	計	5	11	14	14	5	49	100
話す能力	よく話せる	—	2	2	—	—	4	8.3
	まあ話せる	2	4	3	9	1	19	39.6
	ほとんど話せない	—	—	—	1	—	1	2.1
	まったく話せない	3	5	9	4	3	24	50.0
	未記入	—	—	—	—	1	1	—
	計	5	11	14	14	5	49	100

第17表 移住国語の理解程度9(アルゼンチン国A地域)

理解能力		年 令 群					計	
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	人 数	百分比
読む能力	よく読める	—	—	3	4	—	7	31.8
	まあ読める	1	2	4	5	—	12	54.5
	ほとんど読めない	2	—	1	—	—	3	13.7
	まったく読めない	—	—	—	—	—	—	—
	未記入	—	—	—	—	1	1	—
	計	3	2	8	9	1	23	100
書く能力	よく書ける	—	—	4	4	—	8	36.4
	まあ書ける	—	2	2	5	—	9	40.9
	ほとんど書けない	3	—	1	—	—	4	18.2
	まったく書けない	—	—	1	—	—	1	4.5
	未記入	—	—	—	—	1	1	—
	計	3	2	8	9	1	23	100
話す能力	よく話せる	—	—	3	4	—	7	31.8
	まあ話せる	3	2	4	5	—	14	63.6
	ほとんど話せない	—	—	1	—	—	1	4.6
	まったく話せない	—	—	—	—	—	—	—
	未記入	—	—	—	—	1	1	—
	計	3	2	8	9	1	23	100

8 日本の親族

日系老人のほとんどが日本とのつながりに、親族、友人、知己と、日本文化等に求めているものと思われる。なかには現地人と結婚して家庭をつくり、あるいは事業、財産等をその地に定着させ、あるいは回想しても仕方ないこととして、日本の存在を忘却のかなたに置いている数多くの例もみられるが、第18表から母国とのつながりを、日本の親族との文通状況から推察してみよう。

日本に親族があると答えたものが各国合計で96%あり、ほとんどが有力なつながり源を持っていることがわかる。文通は親族がありながらほとんどないと答えた10%強を除き、1年に1、2回あるを頂点に、3カ月に1回程度が続き、一応文通によるつながりは良好のようである。なお、表に明示していないが3カ月に1回程度のなかには、月に2、3回、月にかかわらず1回などの答も含まれていることを申し添えておこう。

第18表 日本の親族の有無と文通状況

親族	地名 区分	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比
親族	あ る	81		22	57	30	55	123	46	22		436	960
	な い	4		1	1	1	2	8	1	—		18	40
	未 記 入	4		—	1	1	4	—	2	1		13	—
	計	89		23	59	32	61	131	49	23		467	1000
親族との文通	3カ月に1回程度	25		6	17	10	14	45	13	8		138	339
	1年に1、2回	42		15	30	6	33	54	21	12		213	523
	数年に1回	6		—	—	4	1	1	3	—		15	37
	ほとんどない	3		—	1	—	7	22	6	2		41	101
	未 記 入	5		1	9	10	—	1	3	—		29	—
通 計	81		22	57	30	55	123	46	22		436	1000	

9 世帯の規模

(1) 世帯構造

各国を歴訪して、ことばの問題のほかにも痛感したもう一つのこと、日系社会が一世、二世とも一般に子沢山であるということである。移住者が主として営農を大地に定着せしめるため、あるいは事業の本拠を都会地等に固めるために、子孫を繁殖させることは、有力な支えとなる。おそらくそういう考え方から、調査対象者の老人の人たちが移住当時子ども連れであったもの、移住後結婚をして子どもを生んだものとは問わず、子孫の育成には、きわめて熱心であったように見受けられる。そういった過程を経た対象者は、現在どのような家族構成にあるかを調べてみた（第19表～第20表・図表6）

すでに第5表家族構成（移住地と現在の配偶関係）で移住時に独身であった人びと145名（男129・女16）のうち独身を通した例外はあるかもしれないが、現在はほとんどが有配偶者と変化していることを示しておいた。

このことは、各国合計で単独世帯わずか13名（男9、女4）の数値がさらに裏書きしている。なお、この単独世帯とは生涯を未婚で過ごしたもの4名（これは第5章家庭生活の状況・第48表で明らかにする）のほかは、配偶者に先立たれ、家族からも離れて孤独生活を送る人びとである。

さて、世帯構造（各国合計）のベスト3は、三世代世帯35.6%、夫婦と未婚の子28.9%、夫婦のみ15.9%で、 $\frac{1}{3}$ 強が2世、3世と暮らしている。さらに $\frac{1}{3}$ 弱が未婚の子と親子関係を温めながらの暮しと見られる。

夫婦だけの世帯は、これも第5章でふれるが、第3位の調査対象全員のうち、子どもの居ない者は15名（未婚4を除き、生まれなかった8、死別した3）に過ぎないので、これらはそのほとんどが子どもの独立、あるいは結婚等で親もとを離れたあとの夫婦生活と解されよう。

なお、年齢群でこれらを検分してみると、数値の裏に隠れている移住者の年齢がしのばれて、現在の心境やこれからの残された人生がどう展開して行くことか、解折者の立場から深い感傷にたされる。

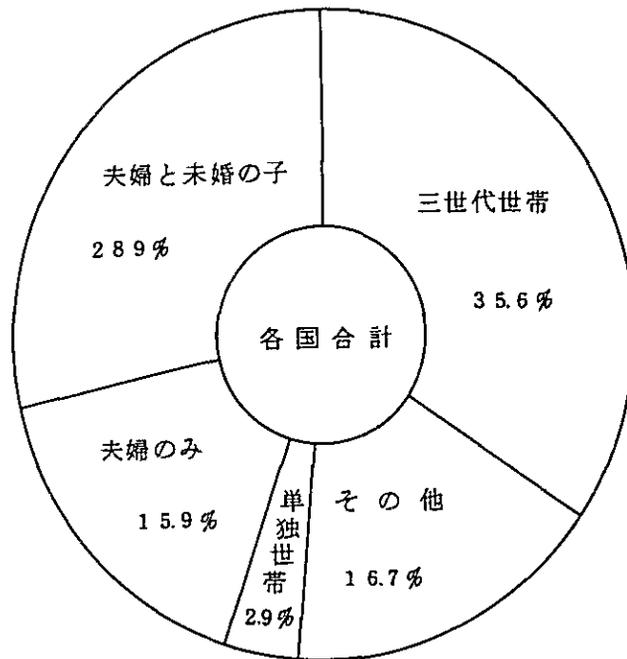
第19表 世帯構造 1

世帯構造	地域区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比		
単 独 世 帯	男	1	—	4	1	—	—	1	2	9	2.0		
	女	1	1	—	—	—	1	—	1	4	0.9		
	小計	2	1	4	1	—	1	1	3	13	2.9		
夫婦のみ		8	3	6	5	2	32	7	8	71	15.9		
夫婦と未婚の子		32	8	21	8	7	33	11	9	129	28.9		
片親と未婚の子		4	1	1	3	—	8	—	1	18	4.0		
三世代世帯		22	10	8	9	52	39	17	2	159	35.6		
その他		21	—	11	5	—	12	8	—	57	12.7		
未記入		—	—	8	1	—	6	5	—	20	—		
計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		

第20表 世帯構造 2 (各国合計)

世帯構造		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
単 独 世 帯	男	1	3	3	1	1	9
	女	1	1	1	—	1	4
	小計	2	4	4	1	2	13
夫婦のみ		6	11	25	18	11	71
夫婦と未婚の子		5	16	36	42	30	129
片親と未婚の子		2	5	3	1	7	18
三世代世帯		19	28	48	39	25	159
その他		9	14	15	13	6	57
未記入		—	—	5	6	9	20
計		43	78	136	120	90	467

図表 6 世帯構造



(2) 世帯人員

世帯人員は第5表、第19表で紹介したように、日本のかつての大家族主義を南米日系社会が引き継いだ様相がある。多子家庭、三世帯世帯の当然の結果として世帯人員で6人以上48.9%を各国合計が示し、第1位を占めている。しかし第2位の2人ぐらし16.8%は、夫婦のみの世帯がそのほとんどで1人ぐらし2.9%ともどもその将来が気にかかる。

(第21表)

第21表 世帯人員

世帯人員 地域区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
	A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比
1人	2		1	4	1	—	1	1	3		13	2.9
2人	8		3	7	6	2	3.5	7	7		76	16.8
3人	1.2		2	8	1	2	8	7	3		43	9.5
4人	1.0		3	1.1	1	4	1.3	3	3		48	10.6
5人	1.0		6	5	5	7	1.4	2	2		51	11.3
6人以上	3.8		8	2.3	1.8	4.6	6.0	2.6	2		221	48.9
未記入	9		—	1	—	—	—	3	2		1.5	—
計	8.9		2.3	5.9	3.2	6.1	13.1	4.9	2.3		467	100

(3) 世帯業種

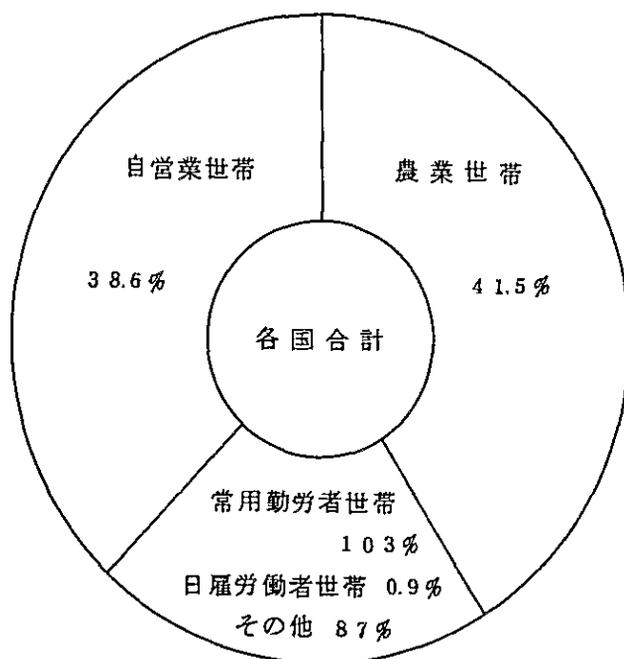
次は経済生活の根拠である世帯業種を明らかにする。(第22表・図表7)

ベスト3は各国合計で農業世帯41.5%, 自営業世帯38.6%, 常用勤労者世帯10.3%となっているが, A地域には自営業世帯, 次いで常用勤労者世帯が多く, B地域には農業世帯が多いのは地域性から当然の姿といえよう。しかし, A地域としての例外をアルゼンチンの場合にみることができる。農業世帯, 自営業世帯, 常用勤労者世帯の順となっているが, これは調査票回収数が僅少であったため, 集計処理上の都合でA地域として全部をまとめたためと了解願いたい。

第22表 世帯業種

国名 地域区分 世帯業種	ペルー	ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
農業世帯	2	1	47	4	52	21	43	11	181	41.5
自営業世帯	66	10	6	15	7	56	3	5	168	38.6
常用勤労者世帯	5	9	—	5	1	23	—	2	45	10.3
日雇労働者世帯	—	1	—	—	1	2	—	—	4	0.9
その他	6	—	—	7	—	20	1	4	38	8.7
未記入	10	2	6	1	—	9	2	1	31	—
計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100

図表7 世帯業種



(4) 住居・居室

I 住居所有状況

第23表は世帯業種別の住居所有状況を示したものである。対象全体像からは、ベスト3が持家85.5%、借家9.5%、借間3.1%で、第1位が第2位以下をきわめて大きく引き離し、持家に強い生活基盤のあることがよくわかる。

しかし、世帯業種別をみると、それぞれの特徴がさらにはっきりする。農業世帯では持家が98.8%で圧倒的に多く、自営業世帯では持家を第1位としながらも、借家が15.5%を占め、常用勤労者世帯は第2位、借間12.2%、第3位借家9.8%と農業世帯、自営業世帯からさらに特徴づけている。なお、日雇労働者世帯は調査該当対象数僅少のため、その他の世帯とともに説明を省略する。

II 居室規模

次に居室の規模を居室数、老人専用室、電話について、対象を農業世帯、自営業世帯、常用勤労者世帯に限定してながめよう(第24表)

詳細は表を見てもらうこととし、ここでは比較することに便利のように同表から全体像を規模別に抜粋してみると、次のようになる。

居室数	農業世帯	自営業世帯	常用勤労者世帯
最低	1 室	2 室	2 室
最高	1 0	1 1	8
平均	4 3	5 0	3 6

平均室数は自営業世帯が他を若干上廻っているものの、各世帯ともに最低最高の間にかなりの格差がある。このことは生活規模が俗語でいうピンからキリまでであることを示しているものといえるのではなかろうか。

老人専用室	農業世帯	自営業世帯	常用勤労者世帯
あ る	7 1 3 %	5 9 3 %	7 0 3 %
な い	2 8 7	4 0 7	2 9 7

ここでは「ある」が自営業世帯で、他より少ないことが特徴となっている。自営業世帯の一般的な形としては、自宅等を活用し、家族ぐるみで業務に励むため、老人専用室を設ける環境的余裕が他の生活条件に較べて少いことであるかとも考えられるものの、これはあくまでも推測で、その理由は明らかでない。

電 話	農業世帯	自営業世帯	常用勤労者世帯
あ る	9 3 %	7 4.1 %	5 6 1 %
な い	9 0 7	2 5 9	4 3 9

これも業種別世帯の特徴がよく出ている。電話は情報連絡、意志伝達など、人間関係のふれあいの上できわめて大きな効用を持つが、自営業世帯は営業上の必要性もあってその所有が他より大きく抜きんでている。次いで常用勤労者世帯が過半数の所有率を示している。農業地帯は他から較べて極端な低率となっている。

Ⅲ 居室状況

居室の住みごちがどうなっているかについて、第25表で居室の状況をまとめた結果としては、「悪いところがない」が各国合計で農業世帯69.4%、自営業世帯73.6%、常用勤労者世帯78.4%となっている。したがってこれらの数値からは、居ごちちは良好と思われるものが多いことになる。しかし、「悪い」と答えた内容から、狭さ、日照通風の悪さ、騒音のひどさなどが、居ごちを悪くしていることを知るのである。

では、現状の居室について老朽状況を考察する数値として、第25表から抜粋してみよう。

老 朽 状 況	農 業 世 帯	自 営 業 世 帯	常 用 勤 労 者 世 帯
修理の必要がある	5 1 6 %	2 3 4 %	2 6 5 %
修理しなくてもよい	4 8 4	7 6 6	7 3 5

これによると、農業世帯の過半数が修理の必要を訴えていることになる。

N 転 居 希 望

以上の住居・居室状況のなかで、対象者が転居への希望を持っているかについて第26表でまとめてみた。

これによると各世帯業種ともに転居を希望しないものが圧倒的な率となっている。

したがってこのことから、対象者の大半が住まいの現状を定着の姿勢で受けとめているように見受けられる。

しかし、すでに明らかにした生活環境の悪い面と、転居希望率にかかわる、移住関係側からのなんらかの配慮も必要かと思われる。

第23表 世帯業種別住居所有状況

国名 地域区分		ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
農業 世帯	持家	2	1	47	3	52	20	43	6	174	988	
	公営住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	借家	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.6	
	借間	—	—	—	—	—	—	—	1	1	0.6	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	未記入	—	—	—	1	—	—	—	4	5	—	
	小計	2	1	47	4	52	21	43	11	181	100	
自営 業世帯	持家	43	8	6	10	7	42	3	4	123	79.4	
	公営住宅	2	—	—	—	—	—	—	—	2	1.3	
	借家	9	2	—	5	—	8	—	—	24	15.5	
	借間	3	—	—	—	—	1	—	1	5	3.2	
	その他	1	—	—	—	—	—	—	—	1	0.6	
	未記入	8	—	—	—	—	5	—	—	13	—	
	小計	66	10	6	15	7	56	3	5	168	100	
常用 勤労 者世帯	持家	2	9	—	3	1	15	—	2	32	78.0	
	公営住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	借家	3	—	—	1	—	—	—	—	4	9.8	
	借間	—	—	—	1	—	4	—	—	5	12.2	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	未記入	—	—	—	—	—	4	—	—	4	—	
	小計	5	9	—	5	1	23	—	2	45	100	
日雇 労働 者世帯	持家	—	—	—	—	1	1	—	—	2	66.7	
	公営住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	借家	—	1	—	—	—	—	—	—	1	33.3	
	借間	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	未記入	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	
	小計	—	1	—	—	1	2	—	—	4	100	
その他 の世帯	持家	6	2	—	4	—	13	—	3	28	62.2	
	公営住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	借家	3	—	—	—	—	6	—	1	10	22.2	
	借間	—	—	—	—	—	2	—	—	2	4.5	
	その他	3	—	—	2	—	—	—	—	5	11.1	
	未記入	4	—	6	2	—	8	3	1	24	—	
	小計	16	2	6	8	—	29	3	5	69	100	
全 世 帯	持家	53	20	53	20	61	91	46	15	359	85.5	
	公営住宅	2	—	—	—	—	—	—	—	2	0.5	
	借家	15	3	—	6	—	15	—	1	40	9.5	
	借間	3	—	—	1	—	7	—	2	13	3.1	
	その他	4	—	—	2	—	—	—	—	6	1.4	
	未記入	12	—	6	3	—	18	3	5	47	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	

第 24 表 世帯業種別居室規模

居室規模		国名 地域区分		ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	A	人数	百分比			
農	居室数	最低	4	未記入	1	4	2	1	1	2	1	—			
		最高	4	"	6	5	9	10	10	7	10	—			
		平均	4.0	"	3.8	4.5	4.5	5.9	3.8	3.6	4.3	—			
業	老人専用室	ある	1	—	20	—	48	14	24	—	107	71.3			
		ない	1	—	21	—	4	4	13	—	43	28.7			
		未記入	—	1	6	4	—	3	6	11	31	—			
	計	2	1	47	4	52	21	43	11	181	100				
世	電話	ある	—	—	—	—	1	11	2	2	16	9.3			
		ない	2	1	43	—	51	10	41	8	156	90.7			
		未記入	—	—	4	4	—	—	—	1	9	—			
	計	2	1	47	4	52	21	43	11	181	100				
自	居室数	最低	2	3	3	2	3	2	未記入	4	2	—			
		最高	9	11	5	9	4	9	"	9	11	—			
		平均	4.5	5.4	4.0	5.0	3.5	5.7	"	7.0	5.0	—			
営	老人専用室	ある	13	6	5	3	4	36	—	—	67	59.3			
		ない	32	3	—	1	1	9	—	—	46	40.7			
		未記入	21	1	1	11	2	11	3	5	55	—			
	計	66	10	6	15	7	56	3	5	168	100				
世	電話	ある	55	7	—	3	1	35	—	5	106	74.1			
		ない	9	3	4	1	3	17	—	—	37	25.9			
		未記入	2	—	2	11	3	4	3	—	25	—			
	計	66	10	6	15	7	56	3	5	168	100				
常	居室数	最低	2	4	—	3	2	2	—	2	2	—			
		最高	6	8	—	4	2	6	—	2	8	—			
		平均	3.6	5.9	—	3.6	2.0	4.2	—	2.0	3.6	—			
用	老人専用室	ある	2	9	—	2	1	12	—	—	26	70.3			
		ない	3	—	—	—	—	8	—	—	11	29.7			
		未記入	—	—	—	3	—	3	—	2	8	—			
	計	5	9	—	5	1	23	—	2	45	100				
者	電話	ある	2	5	—	2	—	12	—	2	23	56.1			
		ない	3	4	—	—	1	10	—	—	18	43.9			
		未記入	—	—	—	3	—	1	—	—	4	—			
	計	5	9	—	5	1	23	—	2	45	100				

注 1. 居室数単位～室，老人専用室，電話～世帯数

注 2. 本表は日雇労働者世帯，その他の世帯は除いてある

第 25 表 世帯業種別居室状況

居室状況		国名 地域区分		ベルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比				
農 業	悪い	狭すぎる	—	—	4	—	8	1	4	2	19	121			
		日照通風が悪い	—	—	1	—	—	2	2	1	6	38			
		騒音がひどい	—	—	1	—	4	—	—	—	5	32			
		その他	—	—	5	—	7	3	3	—	18	115			
	小計	—	—	11	—	19	6	9	3	48	306				
世帯	未記入	悪いところがない	2	1	32	—	26	11	30	7	109	694			
		未記入	—	—	4	4	7	4	4	1	24	—			
		計	2	1	47	4	52	21	43	11	181	100			
老 朽	未記入	修理を要す	1	—	22	—	32	4	19	3	81	516			
		その必要はない	1	1	25	—	19	1	22	7	76	484			
		未記入	—	—	—	4	1	16	2	1	24	—			
	計	2	1	47	4	52	21	43	11	181	100				
自 営 業	悪い	狭すぎる	4	1	—	1	—	1	—	—	7	56			
		日照通風が悪い	3	—	—	—	—	5	—	—	8	64			
		騒音がひどい	9	—	—	—	1	4	—	—	14	112			
		その他	1	—	—	—	—	3	—	—	4	32			
	小計	17	1	—	1	1	13	—	—	33	264				
世帯	未記入	悪いところがない	47	9	3	3	3	22	—	5	92	736			
		未記入	2	—	3	11	3	21	3	—	43	—			
		計	66	10	6	15	7	56	3	5	168	100			
老 朽	未記入	修理を要す	11	6	—	—	1	7	—	—	25	234			
		その必要はない	47	4	5	4	3	14	—	5	82	766			
		未記入	8	—	1	11	3	35	3	—	61	—			
	計	66	10	6	15	7	56	3	5	168	100				
常 用 勤 労 者 世 帯	悪い	狭すぎる	2	—	—	—	—	—	—	—	2	54			
		日照通風が悪い	—	—	—	—	—	3	—	—	3	81			
		騒音がひどい	—	1	—	—	—	1	—	—	2	54			
		その他	—	—	—	—	1	—	—	—	1	27			
	小計	2	1	—	—	1	4	—	—	8	216				
世帯	未記入	悪いところがない	3	7	—	2	—	15	—	2	29	784			
		未記入	—	1	—	3	—	4	—	—	8	—			
		計	5	9	—	5	1	23	—	2	45	100			
老 朽	未記入	修理を要す	—	6	—	—	1	2	—	—	9	265			
		その必要はない	5	3	—	2	—	13	—	2	25	735			
		未記入	—	—	—	3	—	8	—	—	11	—			
	計	5	9	—	5	1	23	—	2	45	100				

第 2 6 表 世帯業種別転居希望

国名 地域区分 転居希望		ペルー	ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
農業世帯	あ る	1	—	6	—	4	3	2	1	17	121
	な い	1	1	39	—	39	16	24	4	124	879
	未 記 入	—	—	2	4	9	2	17	6	40	—
	計	2	1	47	4	52	21	43	11	181	100
自営業世帯	あ る	12	—	3	—	—	3	—	—	18	182
	な い	26	9	1	4	4	35	—	2	81	818
	未 記 入	28	1	2	11	3	18	3	3	69	—
	計	66	10	6	15	7	56	3	5	168	100
常用勤労者世帯	あ る	1	—	—	—	—	4	—	—	5	132
	な い	4	8	—	2	1	18	—	—	33	868
	未 記 入	—	1	—	3	—	1	—	2	7	—
	計	5	9	—	5	1	23	—	2	45	100

第 3 章 健康の状況

本章では老後生活を不安におとし入れる健康の老化について解析をすすめる。

その前の予備情報として昭和 54 年 12 月発行の総理府編高令者問題の現状～迫り来る高令化社会～の中から「老人の健康状況」について一部を抄録してみよう。

「生活水準の向上，医学の進歩，医療保障や社会福祉等諸制度の整備は，我が国の平均寿命を著しく向上させたばかりでなく，老人の健康にも好ましい影響を及ぼしてきた。しかし，以下に述べるように多くの老人が，老化による心身の機能低下や，疾病を有する状態にあることも，また，現実である。（中略）国民健康調査（注 1）による 65 才以上の者の有病率は，青年層の約 5 倍に達しており，その傷病も，循環器系の疾患，神経系及び感覚器の疾患など長期慢性化しやすい疾患が大部分を占めている。（中略）老人健康調査（注 2・健康状況について面接による聞き取り調査を行うとともに，医師による健康診断）では，65 才以上の者の 53.7% が，医師の診断の結果「要治療」とされている。なお，面接の際に「病気なし」と答えた者は，調査対象者の 34.4% あるが，このうち 4 割程度の者は医師の診断結果では「要治療」とされていることも，老人の自覚的な健康度と医学的診断との間にかなりのずれがあることを示すものとして注目される。また（中略）老人実態調査（注 3）で明らかにされた老人の日常生活適応能力の状況では，65 才以上の者の 42.9% が心身に何らかの障害を有しており高年令になるにつれてこの割合が高くなっている。

－（注 1）国民健康調査・昭和 52 年厚生省大臣官房統計情報部。（注 2）老人健康調査・昭和 52 年厚生省社会局。（注 3）老人実態調査・昭和 51 年厚生省社会局

今回の調査は，およそこれらと同じ種目について行ってあるので，歴訪五カ国を日本の現状と比較することができるので，得るところがあるものと思われる。

1 からだの具合

(1) 健康の意識

前記老人健康調査の自覚的な健康度とよく似た種目で，「近頃からだの具合はいかがですか」と質問を設定して回答を求めた（第 27 表・図表 8）

各国合計で，健康であると答えた者は全体の 83.5%（よい 29.8 + 普通 53.7）を占めている。これは日本在住の老人が老人健康調査で「病気なし」34.4%，老人実態調査で「心身ともに障害なし」57.1%との数値よりは，はるかに良好と思われる。

(2) 病気の有無

第28表は病気の有無についてたずねたもので、つまり「近頃からだの具合はいかがですか」の再質問である。これによれば「病気がない」とするもの59.5%で、第27表の健康83.5%を大きく後退している。このような具体的な質問になると健康の意識が変化してくる。これは前記老人健康調査が指摘する老人の自覚的健康度のあいまいさに思いいたる。またこの数値は老人実態調査の「心身ともに障害なし」の57.1%（注、障害あり42.9%）とだいたい接近する。

さて、病気あり40.5%と答えた人の病名を聞いたところ、前記国民健康調査が云う循環器系・感覚器（眼・耳・鼻）などが主要なものとして浮かびあがってくる。

第28表で示した病気があるという人の病名を高率順に並べてみよう。

循環器の病気 37.4%

（脳血管4.7，心臓12.8，血圧18.5，その他1.4）

感覚器の病気 27.0%（眼・耳・鼻の合計）

その他～ 糖尿6.6% 神経痛6.2%，胃腸4.3%，

気管支・ぜんそく4.3%，リウマチ3.8%，

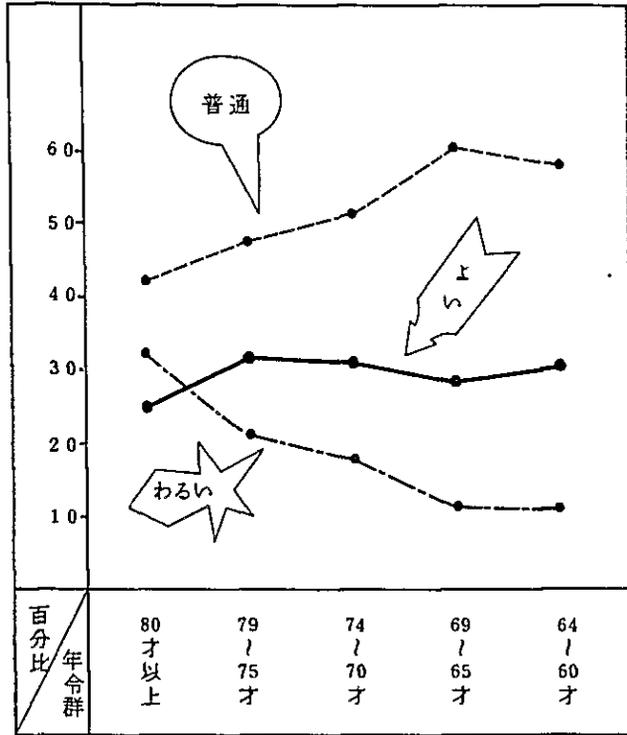
腰痛1.4%（以下省略）

この場合、神経科（精神科）の診療対象となる老化性痴呆、神経症等の病名が出ていない。東京都の老人の生活実態及び健康に関する調査報告（昭和50年）による65歳以上老人の老人性痴呆の出現率4.5%に比較し、南米諸国にはその気配がないということになるが、これは調査対象を自計式または他計式に依じられる条件の者という選び方をしたためで、実際にはあるものと思われる。

第27表 健康状況1 (健康の意識)

国名	地域区分	項目	年 令 群					計
			80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
ペルー	A	よい	4	3	3	7	2	19
		普通	5	6	15	10	7	43
		わるい	1	3	5	4		13
		未記入	2	5	2	5		14
		計	12	17	25	26	9	89
ボリビア	A	よい	1	2	1	2		8
		普通	1		3	2	6	12
		わるい	1	1		1		3
		未記入						
		計	3	3	4	5	8	23
ボリビア	B	よい		3	3	6	13	25
		普通	1	2	4	10	10	27
		わるい	1	2	2		2	7
		未記入						
		計	2	7	9	16	25	59
パラグアイ	A	よい		3	1	1	2	7
		普通		1	4	2	6	13
		わるい		1		2	2	5
		未記入	1	4	1		1	7
		計	1	9	6	5	11	32
パラグアイ	B	よい	1	1	5	2	3	12
		普通	1	2	10	10	11	34
		わるい	2		7	3	3	15
		未記入						
		計	4	3	22	15	17	61
ブラジル	A	よい	4	6	19	8	5	42
		普通	3	16	16	20	7	62
		わるい	6	4	6		2	18
		未記入			7	2		9
		計	13	26	48	30	14	131
ブラジル	B	よい		3	2	3		8
		普通	4	6	10	8	3	31
		わるい	1	2	2	3	1	9
		未記入					1	1
		計	5	11	14	14	5	49
アルゼンチン	A	よい		1	5	3		9
		普通	2		3	6	1	12
		わるい	1	1				2
		未記入						
		計	3	2	8	9	1	23
計		よい	10	22	39	32	27	130
		普通	17	33	65	68	51	234
		わるい	13	14	22	13	10	72
		未記入	3	9	10	7	2	31
		計	43	78	136	120	90	467
百分比		よい	25.0	31.9	31.0	28.3	30.7	29.8
		普通	42.5	47.8	51.6	60.2	58.0	53.7
		わるい	32.5	20.3	17.4	11.5	11.3	16.5
		未記入						
		計	100	100	100	100	100	100

図表 8 健康の意識 (各国合計)



第 28 表 健康状況 2 (病気の有無)

病 気	地 域 区 分	国 名	ベ ルー		ボ リ ビ ア		パ ラ グ アイ		ブ ラ ジ ル		ア ルゼ ン チ ン	計	
			A	A	B	A	B	A	B	A	人 数	百 分 比	
病 気	な い		43	15	42	16	30	77	23	17	263	595	
	あ る		36	8	17	13	26	49	24	6	179	405	
	未 記 入		10	—	—	3	5	5	2	—	25	—	
	計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
あ る と 答 え た 人 の 病 気	循 環 器	脳 血 管	2	—	1	4	1	2	—	—	10	47	
		心 臓	8	3	2	1	4	7	2	—	27	128	
		血 圧	7	2	4	3	5	11	7	—	39	185	
		そ の 他	—	—	1	—	1	—	1	—	3	14	
	神 経 痛	—	—	2	1	6	—	4	—	—	13	62	
	胃 腸	2	—	—	—	1	5	1	—	—	9	43	
	気 管 支, ぜんそく	—	1	2	1	2	2	—	—	1	9	43	
	糖 尿	3	—	1	1	1	6	2	—	—	14	66	
	腎 臓	—	—	—	1	—	1	—	—	—	2	09	
	肝 臓	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	0.5	
	リ ュ ー マ チ	1	—	1	—	—	6	—	—	—	8	3.8	
	腰 痛	—	—	—	—	3	—	—	—	—	3	1.4	
	眼, 耳, 鼻	11	3	1	2	6	19	13	—	2	57	27.0	
	歯	—	—	—	—	1	1	—	—	—	2	0.9	
老 衰	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.5		
身 体 障 害	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	0.5		
そ の 他	—	—	—	—	3	6	—	—	3	12	5.7		
計		35	9	17	14	34	66	30	6	211	100		

注, あると答えた人の病気~重複回答

(3) 有病者治療方法

老人の病気の特徴を4つ考えてみよう。①有病率が若い人より高いということ。②病気が長びくということ。③多くの病気が一緒に起りやすいということ。④老人自身の所得は低く医療費の負担が重いということ。

さて、老人の福祉を向上させるためになにがたいせつかという調査はたくさん行われているが、どの調査をみても、老後をしあわせに送る最高の条件は健康であるとの答がたいへん大きな割合を占めている。老人がより充実した老後生活を営むためには、健康の保持、増進が不可決の要件であることを、諸調査が訴えているのである。

日本では、このような老人の心身の特性に対応し、老人福祉法制定（昭和38年）以来、老人保健医療対策を逐年拡充整備してきている。

南米日系老人の有病者治療方法を考察するため、日本での老人保健医療対策について、その主な具体的項目を参考までに挙げておこう。

老人健康診査

65才以上の老人を対象に、一般診査を毎年1回市町村により実施する。ねたきり老人については自宅に医師を派遣する。一般診査の結果、病気などの疑いのある場合は精密検査をする。費用は一般診査を無料、精密診査を所得の状況により無料または実費制としている。

老人性白内障手術費の支給

老人性白内障で失明した老人のうち、手術可能な65才以上低所得の老人に対し、手術費や眼鏡代の医療保険自己負担分を公費で負担する。

在宅老人機能回復訓練

脳卒中後遺症などの機能障害を、初期のうちに適切な機能回復訓練により、相当程度の回復を図ろうとするものである。実施場所を全国に特別養護老人ホーム138施設、老人福祉センター98施設、合計236カ所設けてある。費用は無料。

老人保健学級

健康で明るい社会生活を送る一助となるよう、健康についての正しい知識、日常生活の健康管理、医者のかかり方等について勉強する。各市町村が実施。

老人医療費支給制度

老人が医療保険で受療した場合の自己負担相当額を公費で肩代わりする。国は原則として一般には70才以上の国民健康保険の被保険者または被用者保険の家族を対象としているが、年齢や所得制限の線を緩めるなど自治体独自の医療サービスを行っている

ころもある。

そこで本題に戻ろう。第29表・図表9は病気を持つ日系老人の治療方法をまとめたものである。

各国合計有病者数195名のうち、治療していない者231%は一応憂慮すべき問題と考えてよからう。では治療している者の治療方法の通院（医療機関）29.2%について眺めよう。まず、通院者が僅か29.2%という僅少の現状と老人医療制等に守られている日本の場合を比較すると、日系老人にもっと光を注ぐことができないものかとの感を深くせざるを得ない。しかも通院回数が、上位の「めったに行かない」36.8%、「月1回程度」28.1%でその過半数を占めているのである。なお、治療方法の第1位売薬が通院を上回る37.4%であることにも注目する必要がある。

(4) 健康の保持増進方法

老後生活は健康で過ごそうとの願いを老人のだれもが持っていることは常識でもわかる。このことについて諸調査でも実証しているところである。日本でもそのための老人自身の健康自主管理が盛んで、行政上でも、老人福祉に関連のある諸団体でもその積極的な協力姿勢を打ち出している。

たとえば「ねたきり老人にならない運動」に県民全体が取りくんでいる事例、老人クラブでの健康増進活動等がある。また元気に過ごしながらある日ぼっくり死んで行きたいと念じて、いわゆる「ぼっくり寺」に参詣するなど、ともかく涙ぐましい努力が重ねられている。

財団法人老人福祉開発センター発行の「健康・長寿・若返り」厚生省老人福祉課・老人保健課監修には、老人の健康について88のヒントがあげられている。（たべものに関する17ヒント、日常生活に関する25ヒント、体に関する19ヒント、体力づくりに関する19ヒント、心に関する11ヒント）。要するに健康の自主管理にはいろいろな方法があるということなのである。

さて、第30表は健康の保持増進について①関心の有無、②保持増進の具体的方法をまとめたものである。

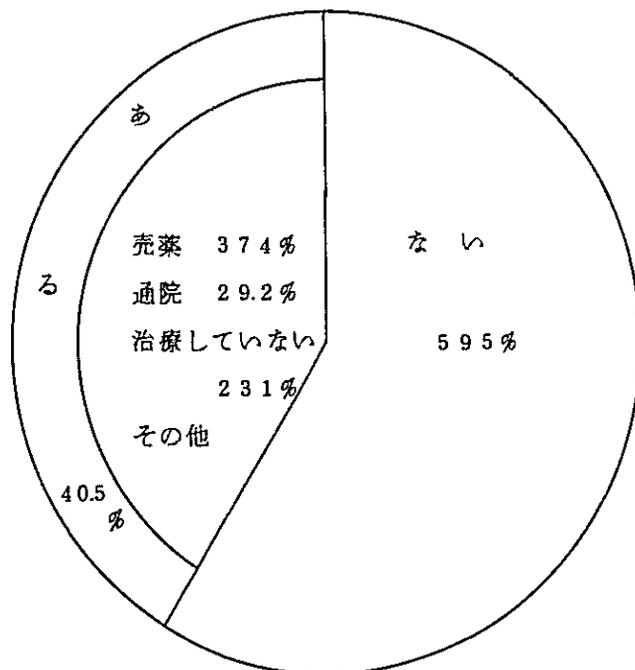
まず、具体的方法各国合計のベスト3を挙げると、第1位バランスのとれた栄養31.8%、第2位十分な睡眠22.5%、第3位体操14.5%となっている。このほか、ゆったりとした心、散歩、その他適度な運動、勤労、と続き、これを裏付けるものとして、関心の有無での「特に意識している」66.3%が「特に意識していない」33.7%を大きく上廻って、健康を念願する老人の心情がこの数値から知ることができる。

第 2 9 表 健康状況 3 (有病者治療方法)

治療方法	地域区分	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A		A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
治療していない		4	—	7	4	12	11	7	—	—	45	231
通院 (医療機関)		19	3	3	4	8	13	3	4	—	57	292
売薬		20	4	5	6	7	17	10	4	—	73	374
お灸		—	—	1	—	3	—	—	—	—	4	21
あんま・マッサージ		—	—	—	—	1	1	—	—	—	2	10
電気治療		—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	0.5
薬草		—	—	—	2	—	—	—	—	—	2	10
食事療法		—	—	—	1	1	2	—	—	—	4	21
その他の		3	1	1	1	—	—	1	—	—	7	36
計		46	8	18	18	32	44	21	8	—	195	100
通院と答えた人	毎日	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	35
	週 2, 3 日	4	—	—	—	—	3	—	—	—	7	123
	週 1 日	1	—	1	1	1	2	—	—	—	6	105
	2 週 1 日	3	—	—	—	1	1	—	—	—	5	88
	月 1 回	6	1	1	2	2	2	—	2	—	16	281
	めつたに行かない	5	2	1	1	4	5	1	2	—	21	368
計		19	3	3	4	8	13	3	4	—	57	100

注. 治療方法~重複回答。ただし未記入欄設けず

図表 9 病気の有無と治療方法 (各国合計)



注 1. 病気の有無 (百分比)

注 2. あるの内訳 (治療方法百分比)

第30表 健康状況4(健康の保持増進)

関心内容		国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
関心の有無	特に意識していない		24	5	14	9	17	27	16	10	122	33.7	
	特に意識している		25	8	41	5	34	84	30	13	240	66.3	
	未記入		40	10	4	18	10	20	3	—	105	—	
	計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
保持増進の方法	散歩		24	7	6	6	3	24	7	3	80	12.1	
	体操		15	1	6	5	19	35	8	7	96	14.5	
	労働		—	—	—	2	1	5	1	—	9	1.4	
	その他適度な運動		7	—	1	2	2	15	3	1	31	4.7	
	バランスのとれた栄養		46	12	29	12	21	61	20	10	211	31.8	
	十分な睡眠		25	5	28	12	14	41	17	7	149	22.5	
	ゆつたりとした心		20	1	2	7	11	34	6	5	86	13.0	
	計		137	26	72	46	71	215	62	33	662	100	

注. 保持増進の方法～重複回答

2 日常生活の動作

(1) 歩行・食事・着脱衣・入浴・用便

日常生活の動作をまず歩行・食事・着脱衣・入浴・用便について第31表～第32表・図表10にまとめた。

各国合計で各項目別にみると、いずれも90%前後が自分で自由にできると答えている。年齢群別では初老期年齢群の64才～60才を97.8%で第1位とし、漸次減率して後期高齢群79才～75才、80才以上では80%台を示している。これは、やむを得ぬ加齢上のものとしても、その年齢群の多くが、老いてなお自立可能の状態にあると云えよう。

(2) 視力・聴力・そしゃく力

ここでは前掲各動作よりやや劣っていることがわかる。老化は目・耳・歯・足から始まると一般に云われているが、それを具体的に数値であらわしていることになる。なお、足については前掲「歩行」が、食事・着脱衣・入浴・用便の90%以上から離れて80%台にあることで、そのことがうかがえよう。

年齢群別では、ここでも後期高齢群へ加齢するにともなって自立が減率する。(第33表

～第34表・図表11)

(3) 主な介護者

起居の動作で自立できるものは別としても、若干困難、全く困難な対象者のうち、介護者の居る者について、その主な介護者の内訳を答えてもらった。(第35表)

介護する者はほとんどが要介護者の家族(830%)であり、その者にとっては家族にみてもらえるという好ましい条件下にある。あとはお手伝いさん(有料, 無料)121%, 隣人4.8%で、この中には日系人, 非日系人が含まれている。日本の場合も家族が中心で、そのうち配偶者, 嫁, 子ども, 孫が世話をしているので、事情が良く似ている。そして特に配偶者者の事情については南米でも日本でも夫は妻を介護する例はすくなく、妻が夫をみるこゝとが圧倒的に多い。第35表では夫を介護者とする数値は全く見られない。このことは一般的に夫は妻より早く死亡し、その死水をとるまでの世話は妻がするけれども、妻が介護を要する時には夫がすでに他界しているということであろうし、また、夫が生存していたとしても、男の習性として介護に不適當であると思ひこんでいることから、隣人とかお手伝いさんなどの婦人の協力を得るということであろう。

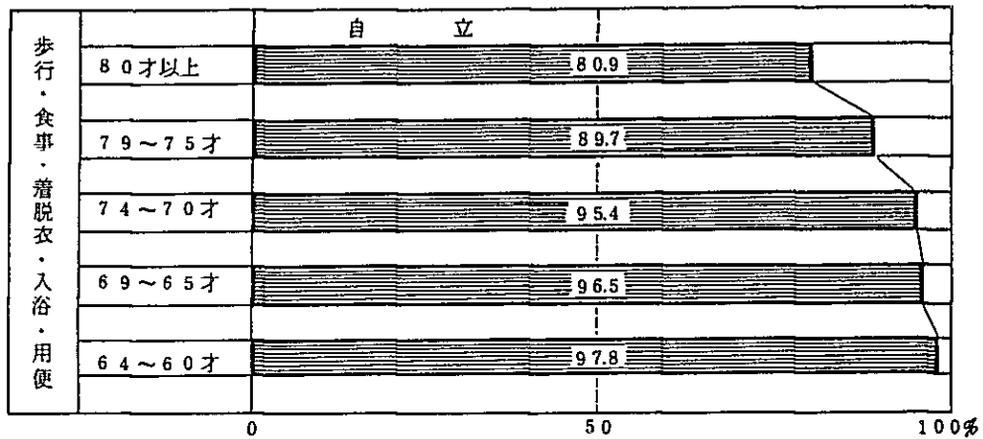
第31表 健康状況5 (日常生活の動作I-I)

生活動作	国名	ペルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
歩行	自分で自由にできる	77	20	55	26	54	121	40	22	415	89.4	
	自分でできるが若干困難	9	2	3	4	5	7	8	—	38	8.2	
	他人の介護が必要	2	1	1	1	2	2	1	1	11	2.4	
	未記入	1	—	—	1	—	1	—	—	3	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
食	自分で自由にできる	81	23	56	27	58	125	46	22	438	94.4	
	自分でできるが若干困難	4	—	—	2	1	4	3	1	15	3.2	
	他人の介護が必要	3	—	3	2	2	1	—	—	11	2.4	
	未記入	1	—	—	1	—	1	—	—	3	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
着脱衣	自分で自由にできる	81	23	57	28	58	128	44	22	441	95.0	
	自分でできるが若干困難	6	—	—	2	1	1	4	1	15	3.2	
	他人の介護が必要	1	—	2	1	2	1	1	—	8	1.8	
	未記入	1	—	—	1	—	1	—	—	3	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
入浴	自分で自由にできる	80	22	58	27	58	128	44	22	439	94.6	
	自分でできるが若干困難	4	1	—	3	1	—	4	1	14	3.0	
	他人の介護が必要	4	—	1	1	2	2	1	—	11	2.4	
	未記入	1	—	—	1	—	1	—	—	3	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
用便	自分で自由にできる	83	23	58	28	58	128	44	22	444	95.7	
	自分でできるが若干困難	3	—	—	2	1	—	4	1	11	2.4	
	他人の介護が必要	2	—	1	1	2	2	1	—	9	1.9	
	未記入	1	—	—	1	—	1	—	—	3	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	

第32表 健康状態6(日常生活の動作I-II・各国合計)

生活動作		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
歩 行	自分で自由にできる	27	69	123	111	85	415
	自分でできるが若干困難	11	5	12	5	5	38
	他人の介護が必要	5	3	1	2	—	11
	未記入	—	1	—	2	—	3
	計	43	78	136	120	90	467
食 事	自分で自由にできる	37	68	130	116	87	438
	自分でできるが若干困難	4	6	3	1	1	15
	他人の介護が必要	2	4	2	2	1	11
	未記入	—	—	1	1	1	3
	計	43	78	136	120	90	467
着 脱 衣	自分で自由にできる	37	70	131	115	88	441
	自分でできるが若干困難	4	5	3	2	1	15
	他人の介護が必要	2	3	1	2	—	8
	未記入	—	—	1	1	1	3
	計	43	78	136	120	90	467
入 浴	自分で自由にできる	36	71	130	115	87	441
	自分でできるが若干困難	5	4	1	2	2	5
	他人の介護が必要	2	3	4	2	—	8
	未記入	—	—	1	1	1	3
	計	43	78	136	120	90	467
用 便	自分で自由にできる	37	71	131	116	89	439
	自分でできるが若干困難	3	4	3	1	—	14
	他人の介護が必要	3	3	1	2	—	11
	未記入	—	—	1	1	1	3
	計	43	78	136	120	90	467
計	自 立	174	349	645	573	436	2,177
	若 干 困 難	27	24	22	11	9	93
	全 く 困 難	14	16	9	10	1	50
	未 記 入	—	1	4	6	4	15
	計	215	390	680	600	450	2,335
百 分 比	自 立	80.9	89.7	95.4	96.5	97.8	93.8
	若 干 困 難	12.6	6.2	3.3	1.9	2.0	4.0
	全 く 困 難	6.5	4.1	1.3	1.6	0.2	2.2
	未 記 入	—	—	—	—	—	—
	計	100	100	100	100	100	100

図表10 日常生活の動作I (各国合計)



注 動作能力=自立, 若干困難, 全く困難

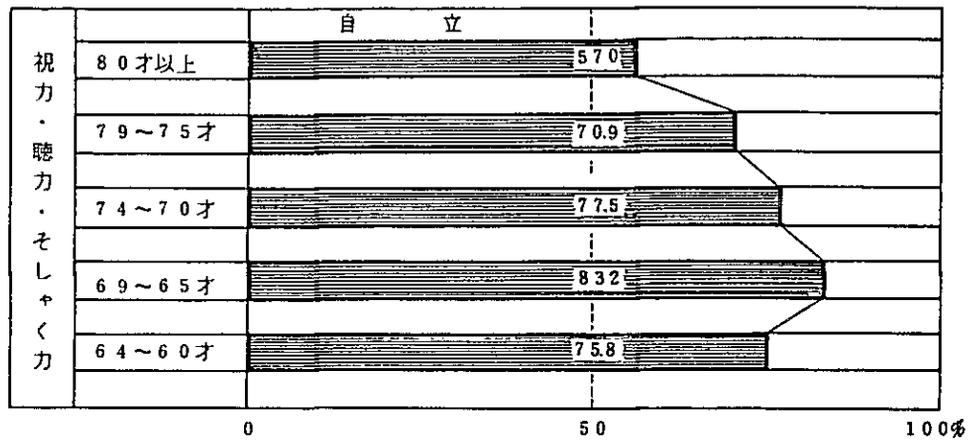
第33表 健康状況7 (日常生活の動作II-I)

生活動作	国名 地域区分	ペルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン A	計	
		A		A	B	A	B	A	B		人数	百分比
視力	新聞の字が読める	65	15	39	20	38	104	35	18	334	72.0	
	新聞の字が読みづらい	16	6	16	11	17	23	10	4	103	22.2	
	新聞の字が読めない	5	2	4	1	6	4	4	1	27	5.8	
	未記入	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
聴力	きこえる	73	19	52	24	42	103	32	22	367	78.8	
	ききづらい	15	4	7	8	15	28	15	1	93	20.0	
	きこえない	—	—	—	—	4	—	2	—	6	1.2	
	未記入	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
そしゃく力	かめる	71	17	49	19	41	111	23	21	352	76.2	
	かみづらい	12	5	10	11	17	20	22	2	99	21.4	
	かめない	2	1	—	1	3	—	4	—	11	2.4	
	未記入	4	—	—	1	—	—	—	—	5	—	
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	

第34表 健康状況8(日常生活の動作Ⅱ-Ⅱ・各国合計)

生活動作		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
視	新聞の字が読める	21	55	102	100	56	334
	新聞の字が読みづらい	15	16	26	17	29	103
	新聞の字が読めない	6	7	7	2	5	27
力	未記入	1	—	1	1	—	3
	計	43	78	136	120	90	467
聴	きこえる	24	53	109	102	79	367
	ききづらい	19	23	24	17	10	93
	きこえない	—	2	3	—	1	6
力	未記入	—	—	—	1	—	1
	計	43	78	136	120	90	467
そ し ゃ く 力	かめる	28	58	102	95	69	352
	かみづらい	14	16	29	23	17	99
	かめない	1	4	2	1	3	11
	未記入	—	—	3	1	1	5
	計	43	78	136	120	90	467
計	自立	73	166	313	297	204	1053
	若干困難	48	55	79	57	56	295
	全く困難	7	13	12	3	9	44
	未記入	1	—	4	3	1	9
	計	129	234	408	360	270	1401
百 分 比	自立	57.0	70.9	77.5	83.2	75.8	75.6
	若干困難	37.5	23.5	19.6	16.0	20.8	21.2
	全く困難	5.5	5.6	2.9	0.8	3.4	3.2
	未記入	—	—	—	—	—	—
	計	100	100	100	100	100	100

図表11 日常生活の動作Ⅱ（各国合計）



注 動作能力=自立, 若干困難, 全く困難

第35表 健康状況9（主な介護者）

介護者 地域区分		ベルギー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計		
		A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比	
介護者が居る者		10		2	5	7	8	3	3	3		41	100	
その内訳 （主な介護者）	家族	配偶者(夫)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		配偶者(妻)	1	—	1	3	—	2	2	1	—	10	24.4	
		嫁	3	—	—	2	5	—	1	—	—	11	26.9	
		子供・孫	5	—	4	—	3	1	—	—	—	13	31.7	
		小計	9	—	5	5	8	3	3	1	—	34	83.0	
	隣人	日系人	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2.4
		非日系人	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	2.4
		小計	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	4.8
	お手伝	有料	日系人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			非日系人	—	1	—	—	—	—	—	2	—	3	7.3
無料		日系人	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	2	4.8
		非日系人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計		—	2	—	1	—	—	—	—	2	—	5	12.1	

3 食事の状況

1日の食事回数を調べたが、3回が圧倒的に多いことは、日本人の習慣からもわかる。このほか2回180%、4回06%とあるが、精査していないので、現地の習慣からか、健康上の理由からかその辺の事情はわからない。

なお、日本的食事の摂取では、87.8%が摂取している。生活習慣としての日本食であるのか、そのことで日本とのつながりを持続させたい考えなのか、これまた精査を欠いたので、はっきりしたことはわからないが、おそらく両方の要素があるものと推察しておこう。(第36表)

4 医療保険の利用

日系人が利用可能な医療保険制度は第1回調査団が報告したように、ブラジル、アルゼンチンに存在している。また第2回調査団が集めた今回の調査票のなかにペルーで回答者の $\frac{1}{5}$ 強、ポリビア、パラグアイでもきわめて小数ながら医療保険に加入しているとの回答がみえる。したがって、その内容が日本のように整備されているものであるかは別として、第37表は医療保険加入の有無をまとめたものである。その結果、加入率各国合計が超低率12.9%であることがわかる。制度のうえで日本は国民皆保険で受診加療の道が開かれているが、日系社会はそういう状況下にはない。現実に日系老人に接触してみると噂にきく日本の老人医療制度を羨望し安心してかかれる医療をのぞむ声が多いことを知らされる。

なお参考までに、この医療保険の利用に関係のあるアルゼンチン、ブエノスアイレス市郊外のMさん夫婦(S県出身)との対話の一部を紹介しておこう。

夫(78才) - 妻を含めて自分たち老後の健康管理のことだが、恩給受給者を対象にバミーという制度があつて助かっている。日本の健康保険みたいなものだ。自分は労働者年金を65才からもらっているので利用できる。妻も同じ扱いをしてもらえる。ただし、18才以上の子弟は該当しない。

妻(73才) - 診察費は無料だが、薬代は自己負担30%ということになっている。

夫 - 入院したい場合は、恩給局に電話すると専門医が訪問してくれ、入院の可否をきめる仕組みである。

妻 - 困窮者の人たちはホスピタル(慈善病院)へ行く。

第36表 健康状況10(食事の状況)

食事		国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分率	
一日回数	2回		4	—	—	5	1	59	9	3	81	18.0	
	3回		79	23	57	27	60	65	39	17	367	81.4	
	4回		—	—	2	—	—	—	—	1	3	0.6	
	不明		6	—	—	—	—	7	1	2	16	—	
	計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
日本の食事	摂取していない			17	6	4	—	4	16	7	1	55	12.2
	摂取している	1日2食		—	—	13	—	—	—	—	22	35	7.8
		1日3食		—	—	9	—	32	—	—	—	41	9.1
		不明		66	17	33	31	25	106	41	—	319	70.9
		小計		66	17	55	31	57	106	41	22	395	87.8
	未記入			6	—	—	1	—	9	1	—	17	—
計			89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	

第37表 健康状況11(医療保険加入の有無)

医療保険		国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
加入している			15	—	1	4	—	16	10	11	57	12.9	
加入していない			61	23	57	28	61	108	37	11	386	87.1	
未記入			13	—	1	—	—	7	2	1	24	—	
計			89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	

第4章 就労の状況

老人福祉を阻害する三元区のうち、前章・健康の老化のあとを受けて、ここでは経済力の衰退について解析する。つまり才2章調査対象のプロフィールでふれた本人の収入源（才7表）に関連するいくつかの内容から「就労」を拡大することになる。（才38表～才44表・図表12）ただし才7表の就労者数と才38章以下の就業者数とはかならずしも一致しない。その理由は、回答者の答の不統一（一問に答え、同質の二問で答えないなど）によるものと思われる。

1 収入の伴う仕事

(1) 就業・不就業

各国合計で収入の伴う仕事の就業不就業をみよう（才38表）。男は就業者が不就業者を14%上廻り、女は逆に不就業者が就業者を47%強上廻り男女の特徴がみられる。

年齢群別（才39表）では男女全体で初老期年齢群の64歳～60歳から69歳～65歳までは就業者が過半数を占めるものの、後期高齢群への移動に伴ない不就業者が多くなり、80歳以上の場合不就業者が92.7%となる。

(2) 就業形態

就業者について、就業形態を才38表～才39表・図表12で明らかにした。男の場合、女の場合を例外なしに自営の就業が90%前後ときわめて高率である。このことは雇用されている者が10%前後ということになる。

以上は年齢群別でも、各年齢群間での格差があまり見られない、なお日本の場合は総理府の労働力調査（昭和50年）で、65歳以上の自営業63.4%（家族従業者19.2%含む）、雇用者36.6%となっているが、これに比較して日系老人の自営の多さと雇用の少なさのなかに日系社会の自主性を想定することができるのではなかろうか。

2 就業者

(1) 職業の種類

日本の65歳以上就業者を産業別にみると、前記総理府調査は才1次産業35%、才2次産業21%、才3次産業44%を示している。これを才40表の各国合計と比較すると、才1次産業（農林・漁業）48.2%、才2次産業（技術工、生産工程作業）8.8%、才3次産業（販売業、保安サービス業、その他を含めて）43.0%で、才1次産業に営農移住の日系社会の特徴があらわれている。才2次産業は工業国日本にはるかにおよばず、才3

オ38表

就労状況1(収入の伴う仕事)

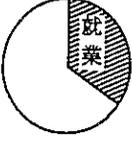
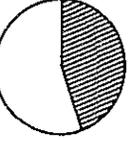
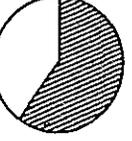
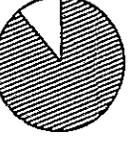
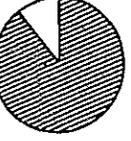
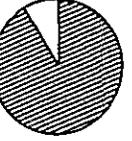
就業	地域区分	ベネ		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比		
男	就業	48	10	35	9	17	37	24	8	188	57.0		
	不就業	19	3	5	14	15	59	17	10	142	43.0		
	未記入	4	-	-	-	2	6	-	3	15	-		
	小計	71	13	40	23	34	102	41	21	345	100		
女	就業	7	2	9	1	4	6	1	-	30	26.3		
	不就業	10	8	9	7	20	23	6	1	84	73.7		
	未記入	1	-	1	1	3	-	1	1	8	-		
	小計	18	10	19	9	27	29	8	2	122	100		
計	就業	55	12	44	10	21	43	25	8	218	49.1		
	不就業	29	11	14	21	35	82	23	11	226	50.9		
	未記入	5	-	1	1	5	6	1	4	23	-		
	小計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		
就業形態	男	自営	31	7	34	7	14	29	21	7	150	88.2	
		雇用	3	3	-	2	3	8	-	1	20	11.8	
		未記入	14	-	1	-	-	-	3	-	18	-	
		小計	48	10	35	9	17	37	24	8	188	100	
	女	自営	6	2	9	1	4	3	1	-	26	92.9	
		雇用	-	-	-	-	-	2	-	-	2	7.1	
		未記入	1	-	-	-	-	1	-	-	2	-	
		小計	7	2	9	1	4	6	1	-	30	100	
	計	自営	37	9	43	8	18	32	22	7	176	88.9	
		雇用	3	3	-	2	3	10	-	1	22	11.1	
		未記入	15	-	1	-	-	1	3	-	20	-	
		計	55	12	44	10	21	43	25	8	218	100	

表39

就労状況2（収入の伴う仕事・各国合計）

性別		年齢群	年 令 群					計
			80才以上	79-75	74-70	69-65	64-60	
就業 ・ 不 就 業	男	就 業	3	24	53	66	42	188
		不 就 業	24	32	48	26	12	142
		未 記 入	1	2	4	8	-	15
		小 計	28	58	105	100	54	345
	女	就 業	-	2	9	7	12	30
		不 就 業	14	14	19	13	24	84
		未 記 入	1	4	3	-	-	8
		小 計	15	20	31	20	36	122
	計	就 業	3	26	62	73	54	218
		不 就 業	38	46	67	39	36	226
		未 記 入	2	6	7	8	-	23
		計	43	78	136	120	90	467
	百分比	就 業	7.3	36.1	48.1	65.1	60.0	49.1
		不 就 業	92.7	63.9	51.9	34.9	40.0	50.9
		未 記 入	-	-	-	-	-	-
		計	100	100	100	100	100	100
就業 形 態	男	自 営	3	20	43	60	34	150
		雇 用	-	3	6	7	4	20
		未 記 入	-	1	4	9	4	18
		小 計	3	24	53	66	42	188
	女	自 営	-	1	8	7	10	26
		雇 用	-	1	-	-	1	2
		未 記 入	-	-	1	-	1	2
		小 計	-	2	9	7	12	30
	計	自 営	3	21	51	57	44	176
		雇 用	-	4	6	7	5	22
		未 記 入	-	1	5	9	5	20
		計	3	26	62	73	54	218
	百分比	自 営	100	84.0	89.5	89.1	89.8	88.9
		雇 用	-	16.0	10.5	10.9	10.2	11.1
		未 記 入	-	-	-	-	-	-
		計	100	100	100	100	100	100

図表 1 2 就業状況（各国合計）

百分比	80才以上	79～75才	74～70才	69～65才	64～60才
就業 不就業					
就業 形態					

次産業で日本とほぼ同率となっている。この才3次産業の同率は、各国A地域で商業関係の就業が多いため、特にベルギーは就業者全体のうち販売業、保安・サービス業、その他の才3次産業が圧倒的な高さを示している。

(2) 就 労 時 間

同じ才40表で就業者の就労時間を示した。賃金労働者の働く時間の一般水準を1週44時以上とすると、日系社会でもその時間帯が才1位となっている。しかし老人就労の特徴と云うべきなのか占むる率は26.8%と低く、あとは「1時間～5時間」から「39時間～44時間」に至る各時間帯が10%前後で散在している。そのなかで比較的が多い時間帯が「5時間～14時間」14.5%、「14時間～29時間」15.1%あたりで、短時間就労も老人就労を特徴づけているように見受けられる。

(3) 自 営 の 規 模

自営する者の経営規模を従業員数で推測するため、才41表はまとめた。各国合計のベスト3は5人以上37.0%、3人～4人29.2%、2人20.8%で、およそ小企業程度が中心と考えられる。なお1人が13.0%で、1人、2人程度は零細企業と云えるかもしれない。

以上は、従業員数に本人・家族・使用人を含めてあるので、一層その感が深い。いずれ

にしても自営は小規模経営が多いものと思われる。

(4) 雇用者勤務先の規模

対象数が少ないので統計としての価値は認めがたいが、状況をみるために役立つものとして表42表をまとめた。これによると雇用者のほとんどが「29人以下」「30人～49人」の小規模企業で働いていることがわかる。

表40表 就労状況3（職業の種類と就労時間・就業者について）

種類	国名 地域区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	人数	百分比
職業の種類	農林・漁業	2	1	35	3	17	13	18	4	93	482		
	販売業	22	2	-	4	2	13	1	1	45	233		
	技術工・生産工程作業	7	4	-	1	-	4	-	1	17	88		
	運輸・通信業	-	1	-	-	-	-	-	-	1	05		
	保安・サービス業	8	-	-	-	-	3	-	-	11	5.7		
	専門的・技術的・管理的職業	8	3	-	2	2	3	1	-	19	9.8		
	その他	1	1	-	-	-	3	1	1	7	3.7		
	未記入	7	-	9	-	-	4	4	1	25	-		
	計	55	12	44	10	21	43	25	8	218	100		
就労時間（一週間）	1～5時間	7	-	2	-	1	6	-	1	17	9.1		
	5～14	4	-	5	3	6	6	2	1	27	14.5		
	14～29	5	-	15	1	1	3	3	-	28	15.1		
	29～34	4	1	2	1	2	3	4	1	18	9.7		
	34～39	3	1	3	2	4	5	5	-	23	12.4		
	39～44	8	3	7	1	1	1	1	1	23	12.4		
	44時間以上	16	1	6	2	2	15	5	3	50	26.8		
	未記入	8	6	4	-	4	4	5	1	32	-		
	計	55	12	44	10	21	43	25	8	218	100		

才41表

就労状況4(自営の規模)

従事者 地域区分		ベルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比
従業員数	1人	1		2	5	1	2	6	1	2		20	13.0
	2人	5		5	7	2	5	7	1	-		32	20.8
	3~4人	8		1	18	2	1	5	8	2		45	29.2
	5人以上	15		1	12	3	9	11	5	1		57	37.0
	未記入	8		-	1	-	1	3	7	2		22	-
	計	37		9	43	8	18	32	22	7		176	100

注 従業員数は本人・家族・使用人を含む。

才42表

就労状況5(雇用者勤務先の規模)

従業員 地域区分		ベルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比
29人以下		2		2	-	1	2	3	-	-		10	62.5
30~49		1		-	-	1	-	2	-	1		5	31.3
50~99		-		-	-	-	-	-	-	-		-	-
100人以上		-		1	-	-	-	-	-	-		1	6.2
未記入		-		-	-	-	1	5	-	-		6	-
計		3		3	-	2	3	20	-	1		22	100

(5) 就業の継続意志

ボリビアのGさん(日本〇県出身77才, オキナワオ一移住地)は「自分は妻と2人だけで養鶏と養豚の仕事をしている。豚は現在80頭居る。年中暇なして仕事に励んでいる。要するに老人の仕事はその気になれば移住地にいくらでもあるということだ」と就業にみなみならぬ意欲を語ってくれた。

ブラグァイのアルトパラナ日本人会幹部から「先日の農業後継者研修会で、若い受講生たちに、まことの親孝行とは老人に仕事をしてもらうことだと考えてほしい。息子や娘たちにはまだまだ仕事を委せられないなどの意気込みを親に持ってもらう。そういういたわりが真の親孝行だと思いと話をしておいた」と、就業と老人の関係を聞かされた。

ブラジル・サンパウロ市街地に住むH県出身Oさん夫婦との対話から。74才の妻「夫は働いていて暇がないので、まだ老人クラブに入会しないとがんばっている」80才の夫「自分の仕事はノコギリの目立てだ。当地では唯一人の技術者ということで、絶え間なく仕事は続いている」

才2回調査団は五カ国歴訪で日系団体との意見交換17回、老人家庭の訪問23カ所を消化したが、以上に似た述懐は、それらの機会に数多く聞くことができた。

就業が所得や生きがいを通して老後生活に潤いをもたらしていることは、日本の諸調査にもみることができる。たとえば高令労働者実態調査(労働省昭和51年)は高令労働者の働く理由を次のように挙げている。

働かないと生活に困る	70.9%
収入をふやしたい	9.9
小遣いを得たい	1.6
働くことに生きがいを感じる	4.6
働いたほうが健康によい	12.5
その他	0.5%

そこで才43表~才44表では、就業者の継続意志と就労理由をまとめてみた。

仕事を続けたい心は、各国合計でも、各年令群でもきわめて高率を示している。継続意志85.0%に対し、仕事を变りたいが3.3%、仕事をやめたいが4.5%と率の上ではまったく問題にならない。就労理由では高令労働者実態調査と率の増減はあるとしても、同じ傾向を示している。日本の「働かないと生活に困る」の圧倒的な高率に較べ「生活維持」40.6%「生活をよくする」22.8%と、就業上の余裕が感じられないでもない。一方、日本の「働くことに生きがいを感じる」を「たのしい」12.9%が大きく上廻っていて、

才43表

就業状況6(就業者の継続意志Ⅰ)

継続意志	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	B	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
仕事の継続意志	仕事を続けたい	39	6	36	6	12	34	13	7	-	153	85.0
	仕事を变りたい	-	2	2	11	1	-	-	-	-	6	3.3
	仕事をやめたい	2	1	-	1	2	1	1	-	-	8	4.5
	わからない	5	-	3	-	2	1	2	-	-	13	7.2
	未記入	9	3	3	2	4	7	9	1	-	38	-
	計	55	12	44	10	21	43	25	8	-	218	100
就業理由	生活維持	20	4	20	4	7	13	12	2	-	82	40.6
	生活をよくする	12	-	11	2	6	7	5	3	-	46	22.8
	小遣いかせぎ	5	1	2	-	-	4	-	2	-	14	6.9
	健康によい	11	-	5	-	6	11	1	-	-	34	16.8
	たのしい	7	-	6	2	2	8	1	-	-	26	12.9
	未記入	-	7	-	2	-	-	6	1	-	16	-
計	55	12	44	10	21	43	25	8	-	218	100	

才44表

就業状況7(就業者の継続意志Ⅱ・各国合計)

継続意志	年齢群					計	
	80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60		
仕事の継続意志	仕事を続けたい	1	21	42	57	32	153
	仕事を变りたい	-	-	-	2	4	6
	仕事をやめたい	-	1	4	2	1	8
	わからない	2	2	6	1	2	13
	未記入	-	2	10	11	15	38
	計	3	26	62	73	54	218
就業理由	生活維持	-	3	15	36	24	82
	生活をよくする	-	2	17	15	12	46
	小遣いかせぎ	1	2	3	4	4	14
	健康によい	1	9	13	10	1	34
	たのしい	1	8	11	4	2	26
	未記入	-	2	3	4	7	16
計	3	26	62	73	54	218	
就業理由(百分比)	生活維持	-	12.5	25.4	52.2	59.6	40.6
	生活をよくする	-	8.3	28.8	21.7	25.5	22.8
	小遣いかせぎ	33.3	8.3	5.1	5.8	8.5	6.9
	健康によい	33.3	37.5	22.0	14.5	2.1	16.8
	たのしい	33.3	33.4	18.7	5.8	4.3	12.9
	未記入	-	-	-	-	-	-
計	100	100	100	100	100	100	

日系老人の就業意識の一端が察知できる。なお「健康によい」は両者ともに10%台にある。

年齢群別の就労理由は、初老期年齢群は「生活維持」「生活をよくする」が圧倒的高率で、まだ現役として、あるいは現役延長群としての意気込みがわかる。これが加齢とともに「小遣いかせぎ」「健康によい」に移って行く。

3 不 就 業 者

(1) 仕事をやめた年齢

才45表の仕事をやめた年齢は各国合計でベスト3の年齢群が目立っている。才1位60歳～65歳の35.1%は定年制などにみられるように、就労年齢の節（境界線）にあっていることをものがたっているものと考えられる。才2位70歳以上の28.1%は就労年齢の節を乗り越えて働き続けてきたものの70歳を過ぎた就労の限界によるものと思われる。才3位60歳以前18.1%は健康上の理由、家庭事情等が想像される。年齢群別で目立つものとしては「64歳～60歳」が60歳以前の68.2%、「69歳～65歳」、「74歳～70歳」の60歳～65歳（それぞれ66.7%、39.6%）、「79歳～75歳」、「80歳以上」の70歳以上（それぞれ51.4%、73.1%）が挙げられる。これらを前記ベスト3の説明にあてはめると、年齢群の特色が浮かびあがってくる。

(2) 仕事をやめた理由

仕事をやめるということは人生の重大事件である。そのやめ方には二つの型がある。それは自分の意志に反した非自発的なものと、希望してやめる自発的なものである。これを例示すれば次のようなことである。

非 自 発 的 = 会社倒産、人員整理、事業不振、勤務先の都合等

自 発 的 = よい仕事を求める、家事・通学等、健康上、その他

才45表～才46表の仕事をやめた理由は、およそこのどれかに該当する。これによると自発的なやめ方（病気、病弱、家庭事情等）が非自発的なやめ方（定年、事業の失敗等）を大きく上廻っている。

(3) 就業時の職業

以前どういう仕事についていたかという過去は、数値のうえではそれほど意味は持たないものと考えられる。ただし日系社会の変化を探るためには必要である。たとえば才47表の農林・漁業63.6%、販売業17.8%は才40表の現在それぞれ48.2%、23.3%と変化し、このことは才1次産業従事者の減退、才3次産業従事者の拡がりということを

ものがたるのである。

オ 4 5 表 就労状況 8 (仕事をやめた年令等 1・不就業者について)

年令と理由	国名	ベネ		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
仕事をやめた年令	60才以前	2	1	1	4	11	11	1	-	31	18.1	
	60～65	10	4	2	3	11	19	6	5	60	35.1	
	66	1	1	1	-	1	2	-	-	6	3.5	
	67	-	-	1	2	1	3	2	-	9	5.3	
	68	1	1	-	2	1	5	1	-	11	6.4	
	69	-	-	1	1	-	3	1	-	6	3.5	
	70才以上	8	2	4	2	3	16	8	5	48	28.1	
	未記入	7	2	4	7	7	23	4	1	55	-	
	計	29	11	14	21	35	82	23	11	226	100	
仕事をやめた理由	病気・病弱	4	1	3	6	7	12	2	1	36	22.2	
	老令	6	3	5	3	16	12	8	6	59	36.4	
	定年	4	-	-	1	-	10	2	2	19	11.7	
	家庭事情	1	3	-	4	6	15	4	1	34	21.0	
	事業の失敗	-	1	-	-	-	2	-	-	3	1.9	
	その他	1	-	2	1	1	4	2	-	11	6.8	
	未記入	13	3	4	6	5	27	5	1	64	-	
	計	29	11	14	21	35	82	23	11	226	100	

オ 4 7 表 就労状況 10 (働いていた時の職業・不就業者について)

種類	国名	ベネ		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
農林・漁業		2	5	8	2	26	22	15	2	82	63.6	
販売業		7	-	-	5	1	8	1	1	23	17.8	
技術工・生産工程作業		2	-	-	-	-	3	-	-	5	3.9	
運輸・通信業		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保安・サービス業		1	-	-	1	1	3	-	-	6	4.7	
専門的・技術的・管理的職業		-	1	-	1	-	3	-	2	7	5.4	
その他		1	2	-	-	-	2	-	1	6	4.6	
未記入		16	3	6	12	7	41	7	5	97	-	
計		29	11	14	21	35	82	23	11	226	100	

才46表

就労状況9(仕事をやめた年齢等Ⅱ・各国合計・不就業者について)

年齢と理由		年齢群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
仕事をやめた年齢	60才以前	1	5	7	3	15	31
	60~65	3	7	21	22	7	60
	66	2	-	2	2	-	6
	67	-	3	4	2	-	9
	68	1	3	4	3	-	11
	69	-	-	5	1	-	6
	70才以上	19	19	10	-	-	48
	未記入	12	9	14	6	14	55
	計	38	46	67	39	36	226
仕事をやめた理由	病気・病弱	6	8	9	7	6	36
	老令	11	11	22	8	7	59
	定年	1	2	10	5	1	19
	家庭事情	2	8	7	10	7	34
	事業の失敗	-	1	1	1	-	3
	その他	2	3	3	1	2	11
	未記入	16	13	15	7	13	64
計	38	46	67	39	36	226	
仕事をやめた年齢(百分比)	60才以前	3.8	13.5	13.2	9.0	6.82	18.1
	60~65	11.6	18.9	39.6	66.7	31.8	35.1
	66	7.7	-	3.8	6.1	-	3.5
	67	-	8.1	7.5	6.1	-	5.3
	68	3.8	8.1	7.5	9.1	-	6.4
	69	-	-	9.5	3.0	-	3.5
	70才以上	73.1	51.4	18.9	-	-	28.1
	未記入	-	-	-	-	-	-
計	100	100	100	100	100	100	
仕事をやめた理由(百分比)	病気・病弱	27.3	24.2	17.3	21.9	26.1	22.2
	老令	50.0	33.3	42.3	25.0	30.5	36.4
	定年	4.5	6.1	19.2	15.6	4.3	11.7
	家庭事情	9.1	24.3	13.5	31.3	30.4	21.0
	事業の失敗	-	3.0	1.9	3.1	-	1.9
	その他	9.1	9.1	5.8	3.1	8.7	6.8
	未記入	-	-	-	-	-	-
	計	100	100	100	100	100	100

第 5 章 家庭生活の状況

経済力の衰退、健康の老化、人間関係の疎外を老人生活の三大元凶と考え、その状況を知ることにより日系老人の生活上の不利な条件があれば、これを有利な方向に転回させることを検討する必要がある。

その見地から経済力の衰退、健康の老化についてはすでに解析を終えた。ここではその三番手としての人間関係の源泉を、家庭生活を中心に掘り下げて行くことにする。そのための予備知識として、まず老人と家族とのかかわりについての意味づけをしておこう。家族は夫婦関係を基礎に近親者を重要な構成員として成立する。血を分け合ったいちばん親しい集団として家族一人ひとりが平等に認め合い、助け合い、外部に対して家族を守るという伝統的な考えが構成員全体に浸透し、団結が強くなる。このことは、友愛的家族というべきあり方で、老人が自分のことのみを主張することはむかしの権威的家族の名残りで、現代には適しないことになる。しかしこの夫婦親子の関係を中心とする生活共同体は、構成員それぞれが共通する目標や課題のための役割を分担し、その発展に努力する使命を担う一方、保護を必要とする未成年者や老令者には共同体による保護が保障される。

さしずめ、家族間における老人の役割としておよそ次のようなものが考えられる。

- ① 家の行事や歴史を子や孫に伝える。
- ② 日常生活の中で、物をたいせつにし、祖先を敬う心を行動を通じて子や孫に教え、よい社会人となるよう指導する。
- ③ 家族間の紛争の場合等、その調整をはかる。
- ④ 家事について可能な限り補助をする。
- ⑤ 長い間の生活経験や隣人関係を通じて、家庭と地域をつなぐ。

※ なお、これとは別に、老人自身の職業についてはその発展に努め、必要に応じて次の世代に引き継ぐ役割がある。

また他の家族が老人に接する心構えとして、老人問題は家族全員の問題として認識し、それへの理解を深める必要がある。その理由は若い者もやがて老人になると云うことである。

要するに家族は人類のもっとも基本的な生活形態として、合理性を超えた感情的融和の、いわば救し合いの小集団として存在するものと云えよう。

1 子 ども

(1) 子どもの有無

すでに才5表で対象者移住時の家族構成のうち、4人以上の子持ちが目立って多いことを指摘しておいた。これは現在でも同じ傾向をみせている。まず各国合計で子どもの有無についてみると、子沢山を裏づけるように子どもの居るもの96.6%を占めている。移住者にとって子どもは心を慰める存在として、事業の戦力として、老後の支えとして、かけがえのない宝物なのであって、種の生殖に情熱を傾けるのである。このことは東西を問わず同じことなのだが、総人口に占める児童人口比(0~14歳)は先進諸国の25%に対し開発途上国が40%であること、これをさらに具体的に示すと日本の25%に対し、ラテンアメリカ(中南米諸国)の42%(1978年、国連の世界人口年鑑)と推計されていることから、日系社会の子沢山の傾向が首肯できるであろう。

さて、子どもが居ないと答えた対象者(467名中の15名、未記入者26名を除いた3.4%)について、その理由をみると、未婚26.7%、生まれなかった53.3%、死別20.0%で、その辿った人生に哀感を覚えざるを得ない。(才48表)

(2) 同居の意識

才49表は子どもが居る対象者の同居の意識を示したものである。同居が良いとするもの各国合計65.8%で別居が良いとするもの27.5%を大幅に上廻っている。これは日本の各種調査が示す同居率と同傾向にある。たとえば内閣総理大臣官房老人対策室「老親扶養に関する調査・昭和49年」は同居率74.7%(男72.3, 女77.0)と報告している。

一方、欧米諸国では老人夫婦の場合原則として子どもとは別居し、無配偶の場合でも、わが国に比較してかなり高い別居率を持っている。したがって日系老人は日本を離れても、同居の意識は日本人としての傾向を持続していることになる。

(3) 同居の実際

才50表~才51表・同表13~14では同居の意識に対し、その実際をまとめた。

同居の有無-同居の意識より実際には、はるかに同居率は高く、日本の諸調査にも上廻って各国合計で87.3%を示している。これは年齢群別でも各年齢群とも同じ傾向にある。

同表13は同居の意識と実際を図示したものである。

同居の子ども-日本の場合と比較してみよう。

	日系老人	日 本
子ども夫婦	69.3%	69.1%
独身の子	26.0	25.0
そ の 他	4.7	5.9

(注) 日系老人の場合は才50表による。日本の場合は厚生省社会局昭和35年高令者調査のうち有配偶老人について。

これによってわかることは、日系老人の同居形態は日本の場合と酷似しているということである。南米日系社会には明治が残っているという声を歴訪五カ国で例外なく聞いたがこれを同居の実際からも証明しているとみるべきであろう。

同居の理由—近親の感情的融和を基本とする生活共同体としての発想で占められている。具体的には同居が自然59.7%、家や家業を守る11.8%、親子の愛情9.9%が各国合計のベスト3であるが、これと以下の項目を含め、感情的融和の表われとしてうけとめられる。したがって同居するからには仲良く暮らして行くよう切望したい。

2. 家庭内の役割

本章のはじめに生活共同体として、老人が分担する役割についてふれておいた。それを具体的にとらえたのが才52表～才53表である。各国合計では家業に精励することが39.2%で才1位を占めし、孫の世話、庭の手入れ、その他の家事がほぼ同率で続いている。これを年齢群別にみると、初老期年齢群は家業に50%前後を示しているが、加齢にともないこれが漸減し家事への補助、庭の手入れ等が漸増してくる。

3. 家族からの相談

家族から相談を受け、適切な助言を試みることは、家庭内の役割の一つであるが、これは前表の各項目の中に含まれているものと承知されたい。才54表はこれらを単独項目として抜き出したものである。家族からの相談の有無を各国合計では、受ける87.3%が、受けない12.7%をはるかに引き離している。これにより一般に云えることは、老人は家族にとってきわめて役に立つ存在であるということである。

相談の内容のベスト3は家族の人間関係(その調整役)24.3%、孫のしつけ19.5%、財産問題17.3%となっている。このうち、家族の人間関係とは家族のだれかが抱える家族間または家族以外とのわけかまりのことである。また財産問題は財産移譲にかかわる問題も多少あるとしても、この場合はそのような家族間の調整を必要とする問題というよりは、消費、所得、投資等、家計上や経営上の諸問題が中心となっている。

これに対し、相談を受けない老人には二つの型がある。それは家族からの相談を期待するもの60%、相談を歓迎しないもの40%である。

オ48表

家庭生活状況1(子どもの有無)

子ども	地域区分	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
			A		A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
子どもの有無	いる		78	21	54	27	60	126	46	14	426	966	
	いない		4	-	-	2	1	2	1	5	15	34	
	未記入		7	2	5	3	-	3	2	4	26	-	
	計		89	23	59	32	61	131	49	23	467	100	
子どもの数	1人		24	2	7	2	3	14	10	2	64	155	
	2人		13	6	4	5	11	9	6	3	57	138	
	3人		7	4	14	1	14	13	9	3	65	158	
	4人以上		34	9	28	15	32	81	21	6	226	549	
	未記入		-	-	1	4	-	9	-	-	14	-	
	計		78	21	54	27	60	126	46	14	426	100	
子どもなしの理由	未婚		1	-	-	-	1	1	-	1	4	267	
	生まれなかった		1	-	-	1	-	1	1	4	8	533	
	死別		2	-	-	1	-	-	-	-	3	200	
	未記入		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計		4	-	-	2	1	2	1	5	15	100	

オ49表

家庭生活状況2(同居の意識)

同居別居	地域区分	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
			A		A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
同居が良い			47	17	45	13	44	54	32	4	256	65.8	
別居が良い			25	1	7	6	7	43	8	10	107	27.5	
わからない			4	1	2	2	5	10	2	-	26	6.7	
未記入			2	2	-	6	4	19	4	-	37	-	
計			78	21	54	27	60	126	46	14	426	100	

オ 50 表

家庭生活状況 3 (子どもと同居)

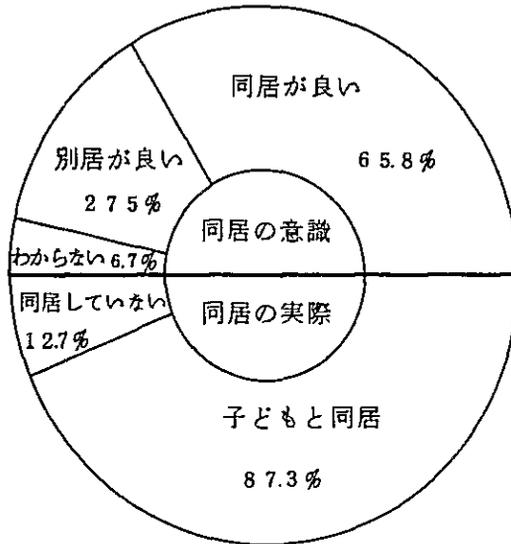
同居状況	地域区分	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
同居の有無	している	72	18	45	27	57	101	36	8	364	87.3	
	していない	6	3	9	-	3	19	8	5	53	12.7	
	未記入	-	-	-	-	-	6	2	1	9	-	
	計	78	21	54	27	60	126	46	14	426	100	
同居の子ども	息子夫婦	22	7	30	14	52	48	27	3	203	59.4	
	娘夫婦	8	2	2	4	2	11	4	1	34	9.9	
	未婚の子	36	7	9	6	3	21	4	3	89	26.0	
	その他	1	2	4	2	-	7	-	-	16	4.7	
	未記入	5	-	-	1	-	14	1	1	22	-	
	計	72	18	45	27	57	101	36	8	364	100	
同居の理由	同居が自然	26	9	34	12	47	54	27	3	212	59.7	
	親子の愛情	11	-	2	5	-	15	2	-	35	9.9	
	世話をしてもらえる	11	3	-	3	1	5	3	1	27	7.6	
	経済上	3	-	1	1	2	6	-	1	14	3.9	
	家や家業を守る	9	2	3	5	6	12	3	2	42	11.8	
	子供の希望	12	1	1	-	1	8	1	1	25	7.1	
	未記入	-	3	4	1	-	1	-	-	9	-	
	計	72	18	45	27	57	101	36	8	364	100	

オ 51 表

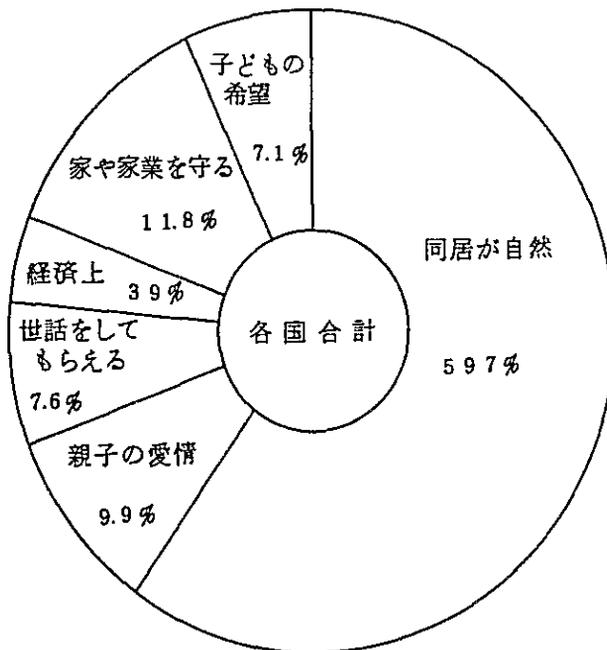
家庭生活状況 4 (子どもと同居・各国合計)

同居の有無		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
人 数	している	35	64	100	96	69	364
	していない	5	4	21	15	8	53
	未記入	1	2	-	3	3	9
	計	41	70	121	114	80	426
百 分 比	している	87.5	94.1	82.6	86.5	89.6	87.3
	していない	12.5	5.9	17.4	13.5	10.4	12.7
	未記入	-	-	-	-	-	-
	計	100	100	100	100	100	100

図表 1 3 子どもと同居の意識と同居の実際（各国合計）



図表 1 4 子どもと同居の理由



オ 5 2 表

家庭生活状況 5 (家庭内の役割・同居の場合)

役割	地域区分	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
家業		23	4	25	12	27	22	17	3	133	392	
孫の世話		8	1	6	6	11	22	6	1	64	189	
庭の手入等		14	2	5	7	4	26	-	3	61	180	
その他の家事		8	3	4	2	11	23	6	1	58	17.1	
その他		3	2	3	-	4	8	3	-	23	68	
未記入		16	3	2	-	-	-	4	-	25	-	
計		72	18	45	27	57	101	36	8	364	100	

注 主なものを 1 を選ぶ

オ 5 3 表

家庭生活状況 6 (家庭内の役割・同居の場合各国合計)

役割	人数	年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
家業		4	14	37	41	37	133
孫の世話		5	9	21	22	7	64
庭の手入等		7	15	24	11	4	61
その他の家事		9	12	10	11	16	58
その他		5	7	3	5	3	23
未記入		5	7	5	6	2	25
計		35	64	100	96	69	364
百分比	家業	133	24.6	38.9	45.6	55.2	39.2
	孫の世話	16.7	15.8	22.1	24.4	10.4	18.9
	庭の手入等	23.3	26.3	25.3	12.2	6.0	18.0
	その他の家事	30.0	21.1	10.5	12.2	23.9	17.1
	その他	16.7	12.2	3.2	5.6	4.5	6.8
	未記入	-	-	-	-	-	-
	計	100	100	100	100	100	100

注 主なものを 1 を選ぶ

表 5 4

家庭生活状況 7 (家族からの相談・同居の場合)

相談	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
家族の相談	受ける	39	18	40	23	50	82	14	8	274	87.3	
	受けない	5	-	4	3	7	18	3	-	40	12.7	
	未記入	28	-	1	1	-	1	19	-	50	-	
	計	72	18	45	27	57	101	36	8	364	100	
相談の内容	財産問題	3	6	4	5	7	12	-	2	39	17.3	
	家族の人間関係	11	5	8	3	7	19	1	1	55	24.3	
	結婚問題	8	5	1	2	5	10	4	-	35	15.5	
	孫のしつけ	6	2	3	3	8	13	7	2	44	19.5	
	家のすべてのこと	-	-	-	1	19	-	2	1	23	10.2	
	その他	11	-	15	-	4	-	-	-	30	13.2	
	未記入	-	-	9	9	-	28	-	2	48	-	
計	39	18	40	23	50	82	14	8	274	100		
相談を受けない	なんでも相談してほしい	3	-	1	1	2	3	-	-	10	25.0	
	重要なことは相談してほしい	1	-	2	1	3	6	1	-	14	35.0	
	あまり相談してほしいくない	-	-	1	1	2	6	2	-	12	30.0	
	すべて相談してほしいくない	1	-	-	-	-	3	-	-	4	10.0	
	未記入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計	5	-	4	3	7	18	3	-	40	100	

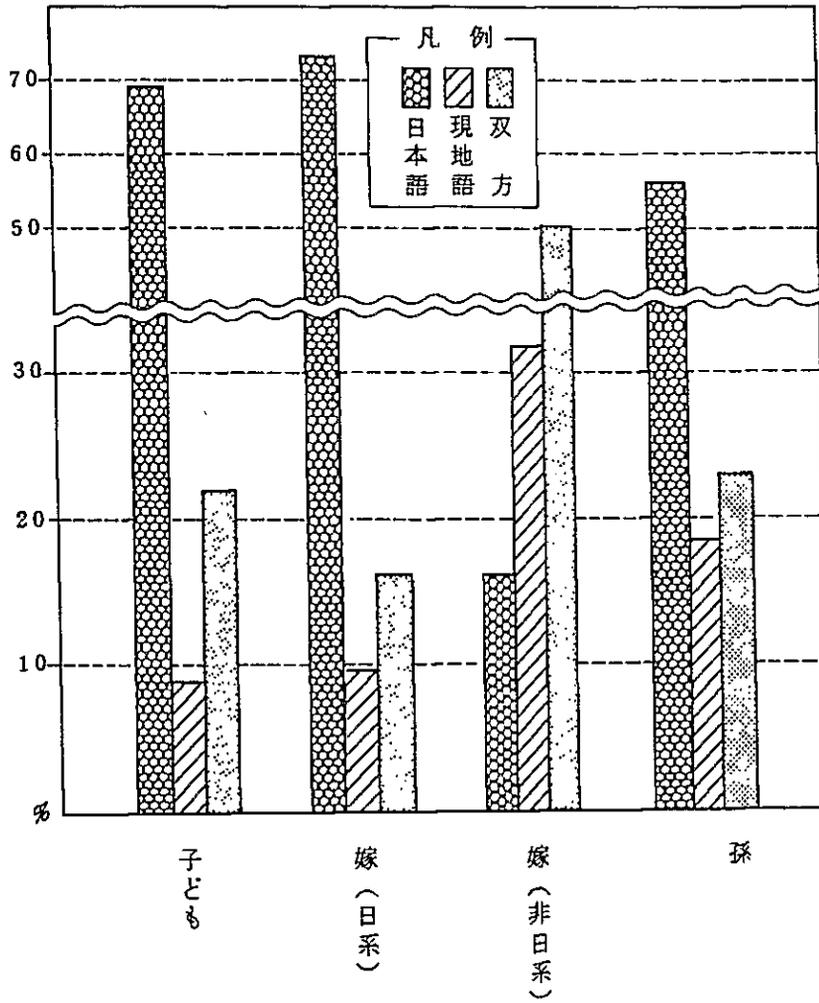
注 各欄ともに1人1答とする

表55 家庭生活状況8(家族と会話時のことば・同居の場合)

会話 使用語	地域 区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
子	日本語	16	10	45	19	56	61	28	3	238	69.2	
	当該国語	16	4	-	-	-	5	1	1	27	8.8	
	双方	31	2	3	5	1	30	6	1	79	23.0	
	計	63	16	48	24	57	96	35	5	344	100	
嫁	日系人	日本語	9	5	41	12	49	45	24	3	188	73.7
		当該国語	19	1	-	-	2	3	-	-	25	9.8
		双方	14	3	4	2	-	17	1	1	42	16.5
		計	42	9	45	14	51	65	25	4	255	100
	非日系人	日本語	-	-	-	2	-	-	-	-	2	16.7
		当該国語	1	-	-	2	-	-	1	-	4	33.3
		双方	-	-	4	-	-	-	2	-	6	50.0
		計	1	-	4	4	-	-	3	-	12	100
孫	日本語	10	4	25	10	50	26	9	3	137	56.6	
	当該国語	21	2	-	4	-	10	4	2	43	17.8	
	双方	11	4	5	6	-	27	9	-	62	25.6	
	計	42	10	30	20	50	63	22	5	242	100	
計	日本語	35	19	111	43	155	132	61	9	565	66.2	
	当該国語	57	7	-	6	2	18	6	3	99	11.6	
	双方	56	9	16	13	1	74	18	2	189	22.2	
	計	148	35	127	62	158	224	85	14	853	100	
百分比	日本語	23.6	54.3	87.4	69.4	98.1	58.9	71.8	64.3	-	-	
	当該国語	38.5	20.0	-	9.7	1.3	8.1	7.1	21.4	-	-	
	双方	37.9	25.7	12.6	20.9	0.6	33.0	21.1	14.3	-	-	
	計	100	100	100	100	100	100	100	100	-	-	

注 未記入者を含まず

図表15 家族と会話時のことば・同居の場合（各国合計）



4. 会話時のことば

オ2章調査対象のプロフィールで移住国語の理解程度を紹介しておいた(オ9表)それによると話す能力は66.7%(よく話せる20.2%, まあ話せる46.5%)で、これは日常生活の必要にせまられて、自然にある程度のもが身についたのであろうとの推察をしておいた。しかしこのことは対外的必要性がそうさせるもので、家庭生活のなかでは事情が変わってくる。

オ55表・図表15で家族と会話時のことばを示したが、家族を子、嫁、孫に分けてみると、世代毎にはっきりした違いのあることを知らされる。

まず、各世代を通して各国合計でみると、日本語66.2%、両国語22.2%、当該国語11.6%となっており、家庭内で日本語を気楽に使う姿が想像される。この関係は子どもとの会話、日系人の嫁との会話にも、日本語70%前後として維持される。しかし非日系人の嫁との会話はその関係が一挙に逆転する。この場合当該国語33.3%は老人にとって気づきも多かろうと思われるものの、両国語50.0%は、大きな救いであろう。また孫との会話では、日本語56.6%は漸く過半数を占めているということであって、日本語による意志の疎通が子どもの場合より後退する。

5. 子どもと別居

(1) 別居の理由

オ50表で示したように、子どもとの同居が圧倒的に多いことに比べ、別居12.7%はきわめて少率である。

その別居の理由をまとめたのがオ56表・図表16である。これによると各国合計のベスト3は、オ1位子が別居を希望30.4%、子の職場が遠い28.3%、現在の土地から離れたくない17.4%で、その他の理由ともどもに、非自発的別居、自発的別居が数値の中に秘められ、ことに少数の回答として「家族問題」の中に、子どもに迷惑をかけたくないからという記述に接し、大いに考えさせられた。

(2) 子どもとの交流

別居している子どもとの日頃の接触状況をみたのがオ57表である。これを厚生省社会局・昭和45年老人実態調査の中からひとり暮らし老人の子ども・親戚との交流状況と比較してみよう。

	日系老人	日本
毎日あり（今日・昨日会った）	48.0	27.3%
週1～2回（2～7日前に会った）	28.0	17.6
月1～2回（8日～1カ月以内に会った）	14.0	24.1
年数回（1カ月～1年以内に会った）	6.0	21.7
ほとんど会わない（1年以上会っていない）	4.0	9.3

（注）カッコ内はオ57表の表示項目

これによってわかることは日本の老人より日系老人の方が子どもとの接触が密であるというのである。

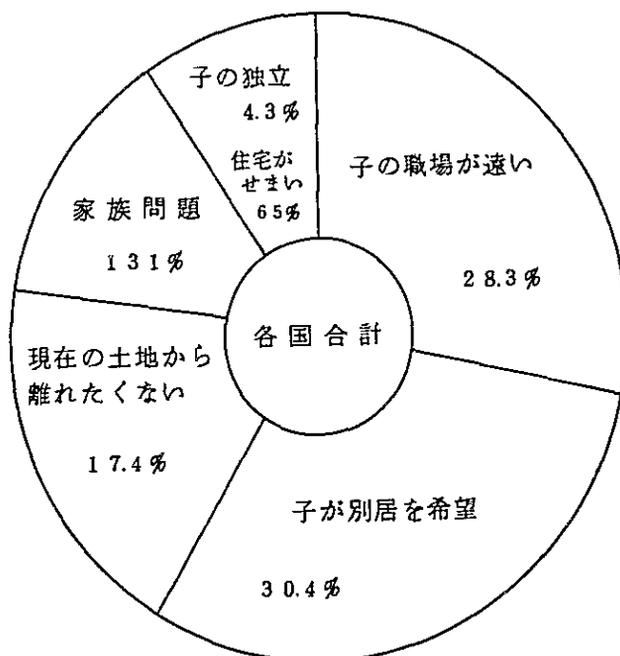
オ56表 家庭生活状況9（子どもと別居Ⅰ・別居の理由）

理由	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
	地域区分		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
子の職場が遠い	-	2	3	-	-	4	3	1	13	283		
子の独立	-	-	-	-	-	2	-	-	2	43		
子が別居を希望	2	1	-	-	-	6	3	2	14	304		
住宅がせまい	-	-	-	-	-	1	1	1	3	65		
現在の土地から離れたくない	1	-	2	-	2	2	1	-	8	174		
家族問題	-	-	1	-	1	3	-	1	6	131		
未記入	3	-	3	-	-	1	-	-	7	-		
計	6	3	9	-	3	19	8	5	53	100		

オ57表 家庭生活状況10（子どもと別居Ⅱ・子どもとの交流）

理由	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
	地域区分		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
今日・昨日会った	6	1	1	-	2	7	4	3	24	480		
2～7日前に会った	-	-	5	-	1	6	1	1	14	280		
8日～1カ月以内に会った	-	1	1	-	-	4	1	-	7	140		
1～6カ月以内に会った	-	-	-	-	-	2	-	-	2	40		
6カ月～1年以内に会った	-	1	-	-	-	-	-	-	1	20		
1年以上会っていない	-	-	1	-	-	-	1	-	2	40		
未記入	-	-	1	-	-	-	1	1	3	-		
計	6	3	9	-	3	19	8	5	53	100		

図表 16 子どもと別居の理由



6. 自由時間

総理府編高齢者問題の現状（昭和54年12月刊）は総理府の社会生活基本調査・昭和51年の中で、60才以上の余暇の使い方を次のように説明している。

「余暇の使い方のうち、有業無業、性別及び教育程度にかかわらず、1位はラジオ・テレビ・新聞・雑誌であり、約2～3時間が充てられている。2位は休養・くつろぎで約1時間である。これら以外の余暇の使い方、例えば趣味・娯楽・スポーツ等において各年代を通じ1時間を超えるものはない。ただし、教育程度が上がるにつれて、ラジオ・テレビ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎに費す時間が減少し、趣味・娯楽・スポーツ及び交際に費す時間が増大するということがわずかながら認められる。

さて、才58表で日系老人の自由時間の過ごし方をみると、各国合計のベスト3が新聞・読書・音楽などの趣味31.6%、ラジオ・テレビ20.3%、人びととの語り14.5%となっている。次いで才4位は園芸・手芸・生花・茶などの趣味、才5位奉仕活動、才6位魚釣り・散歩・運動などと続くのであるが、総理府調査の日本老人と同じ傾向にあることがわかる。なお、才1位から才4位までについて特に附記しておきたいことは、日本の活字、日本

の音、日本の絵（カセットテレビを含む）、母国語などを意識的に取り入れる努力をしているということである。自由時間を活用して、すこしでも故国の文化とふんい気に親しもうという心情に心搏たれるものがある。このことは才5位以下にも云える。

才58表 家庭生活状況11(自由時間の過ごし方)

過ごし方	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比	
ラジオ・テレビ		61	12	5	14	20	50	17	8	187	20.3	
新聞・読書・音楽などの趣味		44	13	35	20	41	90	35	12	290	31.6	
園芸・手芸・生花・茶などの趣味		17	4	9	7	22	37	15	5	116	12.6	
碁将棋などのゲーム		4	1	4	1	2	10	9	-	31	3.4	
魚つり・散歩・運動など		15	1	3	3	6	13	7	4	52	5.7	
スポーツの見物		3	-	-	-	8	9	-	2	22	2.4	
奉仕活動		8	2	1	2	4	33	3	4	57	6.2	
人びととの語らい		27	6	22	8	27	25	15	3	133	14.5	
その他		-	1	-	-	1	11	-	1	14	1.5	
特になにもしていない		4	1	4	1	2	2	2	1	17	1.8	
計		183	41	83	56	133	280	103	40	919	100	

注、本表は重複回答

7. 交 友

(1) 近所づきあい

才59表は向う三軒両隣り、遠い親戚より近い他人の云い伝えが、日系社会に生きていることを教えてくれる。これは日本の数値と比較すれば容易にわかる。

	日系老人	日 本
互いに家を訪ね話し込む(すすんで交際)	71.0%	181(25.4)
あいさつ・立話の程度(あいさつ程度)	25.6	74.3(67.8)
つきあいが無い(全く交際していない)	3.4	7.6(6.8)

(注1) カッコ内項目は才57表の表示。数字は各国合計。

(注2) 日本資料は昭和47年東京都老人福祉基礎調査。

対象60才以上男女の近所づきあいについて。カッコ内数字は女の場合。

カッコ外数字は男の場合である。

日本の場合、かつては人びととの間に地縁血縁のつよいつながりがあったが、文化の拡幅が意識の変革をもたらし、地縁性、血縁性の密度がともに薄れてきている。農山漁村にはまだ昔の名残りをとどめていないでもないが、特に都会地の地縁性に隣りはなにをする人ぞ式の情景がみられる。このため最近では地域の回復を目的とする諸活動が全国的におこりつつあるが、一般には未だしの段階にとどまっている。ところが日系社会では歴訪五カ国いずれも生活共同体の中の自己の存在を認識し、地縁性、血縁性の密度の濃さを保持することに努めている。血縁性については前記子どもとの同居、別居の中からも察知できるし、地縁性についてはオ59表がものがたってくれる。

なお、現地人との交際は日本の場合と同じ程度となっている。すすんで交際21.9%、あいさつ程度53.8%を合わせて75.7%の数值は、現地の人びともよく融和しているとみてよいのではなからうか。

オ59表 家庭生活状況12（近所の人との交際）

交際	地域区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	人数	百分比
日系人	すすんで交際	54	14	44	15	38	83	30	13			291	71.0
	あいさつ程度	21	5	12	6	16	27	13	5			105	25.6
	全く交際していない	3	1	1	1	1	5	1	1			14	3.4
	未記入	11	3	2	10	6	16	5	4			57	-
	計	89	23	59	32	61	131	49	23			467	100
非日系人	すすんで交際	16	7	7	2	2	25	4	7			70	21.9
	あいさつ程度	44	9	29	13	14	37	20	6			172	53.8
	全く交際していない	4	3	14	2	24	19	9	3			78	24.3
	未記入	25	4	9	15	21	50	16	7			147	-
	計	89	23	59	32	61	131	49	23			467	100

(2) 友人・知人

加齢にともなう孤独化への道は老人にとり避けることができない運命的なものである。したがってそれを防ぐための努力を老人は試みる。近所づきあいも有効な手段であり、また自分を理解してもらえ友人・知人の存在も貴重なものである。

オ60表はその有無についての数値であるが、友人・知人が居ると答えたものは各国合計で96.2%を示し、日系老人にとってたいへん心強いものを感じる。その内容は日系人

に多いが、現地人も決して少数ではない。

(3) 日本人会

歴訪五カ国の日系人の居住地にはほとんど日本人会の組織がある。その中には日本とその国の名を頭に冠して〇〇文化会、あるいは〇〇援護協会などと名称をかえているものもある。またこのほかに会員を出身地に限定した県人会などの組織もある。

これらはいずれも同族意識のもとに団結し、生活防衛を目的とする生活共同体の組織として受けとめられる。老人にとっては孤独を慰やす手段の一つとして貴重な存在といえよう。

表61表はその日本人会に対する対象老人の活用状況を伝えるものである。(なお、県人会は表に含まれていない)

日本人会の有無—各国合計で「ある」92.0%はきわめて高率である。

加入の状況—加入率82.2%はかなりの高率であるが、加入していない者17.8%ほどのような理由で、この孤独解消の社会資源から遠のいているのであろうか、問題として残る。

会合数～月間会合数は1～2回69.2%が1位である。2位3～4回20.5%を含めて、この辺が適当なのであろうと思われる。なお少率ながら年間1回とするものが2.5%目につく。会合がこのように間隔があり過ぎると同窓会的な顔合わせ、旧交を温める役割としてはよいが、生活共同体の組織活動とは云い難く、会員の要望に対応することはできなくなる。

表60 家庭生活状況13 (友人・知人の有無)

有無	地域区分	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比		
居	ない	3	1	3	1	-	5	4	-	17	3.8		
居	る	86	22	53	30	58	110	45	23	427	96.2		
未	記入	-	-	3	1	3	16	-	-	23	-		
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		
友人知人の内訳 (百分比)	日系人	65.4	60.0	94.3	76.7	89.7	72.7	72.5	57.1	73.2	-		
	非日系人	34.6	40.0	5.7	23.3	10.3	27.3	27.5	42.9	26.8	-		

オ61表

家庭生活状況14 (居住地区日本人会の有無)

日本人会 地域区分		ペルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比
有 無	ない	7	-	6	-	-	17	3	-	-	33	8.0	
	ある	70	22	49	24	61	99	35	20	380	92.0		
	未記入	12	1	4	8	-	15	11	3	54	-		
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		
加 入	していない	11	1	10	5	3	15	7	4	56	17.8		
	している	36	21	29	14	45	78	21	14	258	82.2		
	未記入	23	-	10	5	13	6	7	2	66	-		
	計	70	22	49	24	61	99	35	20	380	100		
会 合 数 (月)	1～2回	3	-	3	2	27	41	4	1	81	69.2		
	3～4回	2	-	-	3	11	5	2	1	24	20.5		
	5回以上	3	-	-	1	-	3	2	-	9	7.7		
	年1回	-	-	1	-	1	-	-	1	3	2.5		
	未記入	28	21	25	8	6	29	13	11	141	-		
	計	36	21	29	14	45	78	21	14	258	100		

8 小遣い

ブラジル・ベレーン市内のSさん(男・79才・M県出身・7年前に妻に先立たれた)の話から一養老年金を月額1,000コントもらっているが、たばこや本を買うためには不足だ。小遣銭としてすくなくとも月2,000コントは欲しい。それだけあれば、孫に小遣いもやれる。

これは老人を淋しい思いから楽しい生活へ引き上げるためには、その懐具合がゆたかであるに越したことはないとの事例であって、各国の老人から老令年金が欲しい、自分の小遣いぐらいは稼ぎたい。小遣いに不自由のない生活をしたい、敬老慰安金の支給をのぞむ、などたくさんの声を聞かされた。

オ62表は自由に使える小遣いを調べたものである。これによると各国とも「ある」との答がたいへん多く、各国合計で89.9%を示している。その金額について精査していないのでたしかなことは云えないが、ベレーンのSさんの述懐のように小遣銭の中身が問題であることは推察できよう。

表 6 2

家庭生活状況 15 (自由に使える小遣い)

小遣い	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	B	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
ない		3	4	1	4	1	13	5	7	2	36	101
ある		49	51	20	51	23	37	101	26	13	320	899
未記入		37		2	4	8	11	25	16	8	111	-
計		89		23	59	32	61	131	49	23	467	100

表 6 3

家庭生活状況 16 (信仰)

小遣い	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A	B	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
ない		12	5	4	5	5	8	26	6	11	77	187
ある		53	52	18	52	21	47	94	41	9	335	813
未記入		24		1	2	6	6	11	2	3	55	-
計		89		23	59	32	61	131	49	23	467	100
信仰の内訳	キリスト教(新)	3	3	4	3	4	3	21	3	-	41	125
	キリスト教(旧)	10	22	6	22	5	12	6	1	5	67	204
	仏教	33	21	6	21	8	26	53	25	2	174	531
	神教	7	3	1	3	3	4	7	4	-	29	88
	その他	-	1	1	1	1	2	6	6	-	17	52
	未記入	-	2	-	2	-	-	1	2	2	7	-
	計	53	52	18	52	21	47	94	41	9	335	100

9. 信 仰

ボリビア・オキナワオ二移住地のFさん夫婦との対話から。妻(65才)→カトリックの洗礼を受けた。この婦人たちの多くが入信している。日曜日ごとの教会通いがたいへん楽しい。おおぜいの仲間と話ができるから。

夫(73才)→男の場合は入信者がすくない。自分も入っていない。その理由は仕事やつきあいで人と会う機会が多いので、別に淋しいとは思っていないからだ。

この話の中から老人の孤独化を防ぐ二つの手段が浮かびあがってくる。宗教と仕事である。オ63表ではその一つの宗教を信仰というかたちでとらえた。

信仰を持つもの、各国合計で81.3%を数える。その内容をベスト3で示すと、オ1位仏教53.1%、オ2位キリスト教32.9%(旧20.4%、新12.5%)、オ3位神教8.8%となっている。今回のボリビア訪問の折、サンファン移住地の中心地に、教会の入口が神社の鳥居で取りつけられてあった風景と、前記Fさん夫婦との話を結びつけて、転宗をしたからと云っても日本を忘れぬための日系社会の心情を強く感じさせられた。

10. 寂寥感(日頃の淋しさ)

本章ではからだと心の老化がもたらす老人の孤独化に対応する手段のいくつかを数値で示してみたものの、現実には孤独化への門を閉ざすことは不可能と思われる。これをオ64表で数字の上で表示してみよう。

日頃淋しさを感じるかとの説問に対し、各国合計で全く感じない60.9%はまことに心強い回答である。しかし感じる39.1%(いつも感じる5.8%、ときどき感じる33.3%)は見のごしにできない数値である。それではどうしたらよいかという領域にまでこの調査は幅を拡げていないのであるが、生活共同体として日系社会のしかるべき対応に期待をつなぎたい。

オ64表 家庭生活状況17(寂寥感～日頃の淋しさ)

淋しさ 地域区分	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	A	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比		
いつも感じる	4	1	2	1	6	6	1	3	24	5.8		
ときどき感じる	25	6	24	12	15	36	14	5	137	33.3		
全く感じない	48	14	32	13	35	69	28	12	251	60.9		
未記入	12	2	1	6	5	20	6	3	55	-		
計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		

11 生きがいと悩み

寂寥感対応のための参考資料として役立つことを念願し、日系老人が抱く生きがいと悩みを数値のうえで明らかにしよう。

(1) 生きがいの内容

生きがいはまことに抽象的な表現であるが、わかりやすく云えば生きる張り合いである。つまり、自分ののぞみが満たされる状態を云い、それは一時的なものではなく、永続する状態であることが、生きがいの条件とされる。またこれを主観的に感じる場合と客観的にみつめる場合がある。

主観的なものとしては、自分はしあわせだと思ふ心の状態のことで、客観的な生きがいは他人の目からあの人しあわせだと思わせる状態のことである。

才65表～才67表・図表17は、毎日のくらしの中で感じる生きがいをまとめたものであるが、日系老人各国合計と日本の老人の場合とを比較してみよう。

	日系老人	日本
家族のこと・子や孫の成長など(同じ)	37.2%	29.9%
職業・仕事のこと(仕事をする)	13.8	21.5
趣味・娯楽のこと(趣味や娯楽をたのしむ)	9.1	14.0
社会活動(社会奉仕にはげむ)	8.7	3.7
— (友人・隣人と交際する)	8.4	-
— (信仰を持つ)	17.0	-
その他(同じ)	0.7	3.7
ない・不明(特にない)	5.1	27.2

(注1) カッコ内は才65表の表示項目

(注2) 日本資料は昭和48年総理府老人問題に関する世論調査(対象60才以上)

両者のベスト3のうち、才1位家族のこと・子や孫の成長などは、ともに才1位だが、日系老人の場合の才2位は信仰を持つこと、才3位が職業・仕事のこと、日本老人では職業・仕事のことか才2位、趣味・娯楽のこと才3位と分かれる。日系老人と日本老人との相違点は、信仰を持つこと17.0%、友人・隣人と交際すること8.4%が日本老人の項目として表れていないということと、今一つは社会奉仕にはげむことが日本老人3.7%に対し8.7%と上廻っていることである。したがってこの資料からも、日本老人に比較して信仰心の強さと生活共同体の認識の深さを知ることができる。なお、年齢群別では、加齢にともない友人隣人と交際する、信仰を持つ、社会奉仕にはげむが増率し、仕事をするが

漸減している。

(2) 悩みの内容

オ67表～オ69表、図表17に悩みごとを集めた。

各国合計のベスト3は健康のこと13.8%、経済のこと9.4%、家族のこと8.3%となっている。このことは本報告で指摘する老人生活の三大元凶、すなわち経済力の衰退、健康の老化、人間関係の疎外と合致している。

オ69表はこれを各国ごとに具体的に示したものである。いままで各章ごとにこれに関連することがらを述べてきたのでここでは改めて説明を加えることを避ける。詳細は表により了解されたい。

オ65表 家庭生活状況18 (生きがい)

生きがい 地域区分	ベルー		ポリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
家族のこと(子・孫の成長など)	43	20	45	19	42	58	36	10	10	273	37.2
趣味や娯楽をたのしむ	7	1	2	4	6	37	5	5	5	67	9.1
友人隣人と交際する	24	2	1	3	3	22	2	5	5	62	8.4
信仰を持つ	24	6	15	10	16	38	14	2	2	125	17.0
社会奉仕にげむ	24	1	-	1	2	32	2	2	2	64	8.7
仕事をす	18	7	12	5	10	22	21	6	6	101	13.8
その他	-	-	1	-	2	1	1	-	-	5	0.7
特にない	3	1	3	3	7	12	4	4	4	37	5.1
計	143	38	79	45	88	222	85	34	34	734	100

注1. 本表は重複回答

注2. 未記入を含まず

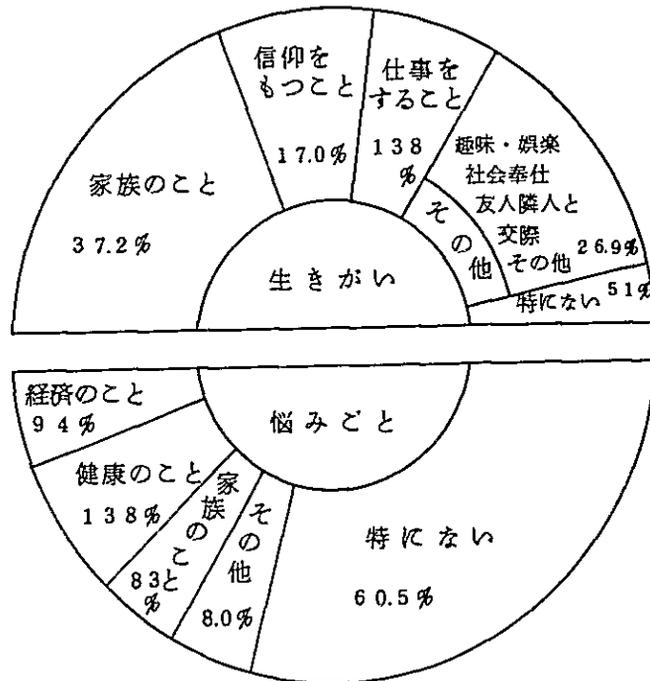
オ 6 6 表

家庭生活状況 19 (生きがい・各国合計)

生きがい		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
回 答 数	家族のこと(子孫の成長など)	19	40	81	74	59	273
	趣味や娯楽をたのしむ	3	9	27	16	12	67
	友人隣人と交際する	7	11	19	20	5	62
	信 仰 を 持 つ	14	24	35	28	24	125
	社会奉仕にはげむ	7	10	24	17	6	64
	仕 事 を す る	3	16	30	37	15	101
	そ の 他	-	-	2	1	2	5
	特 に な い	5	6	9	11	6	37
	計	58	116	227	204	129	734
百 分 比	家族のこと(子孫の成長など)	32.8	34.5	35.7	36.3	45.7	37.2
	趣味や娯楽をたのしむ	5.2	7.8	11.9	7.8	9.3	9.1
	友人隣人と交際する	12.1	9.5	8.4	9.8	3.9	8.4
	信 仰 を 持 つ	24.1	20.7	15.4	13.7	18.6	17.0
	社会奉仕にはげむ	12.0	8.6	10.6	8.3	4.7	8.7
	仕 事 を す る	5.2	13.8	13.2	18.2	11.6	13.8
	そ の 他	-	-	0.9	0.5	1.6	0.7
	特 に な い	8.6	5.1	3.9	5.4	4.6	5.1
	計	100	100	100	100	100	100

注. 本表は重複回答

図表17 生きがい・悩みごと(各国合計)



才67表

家庭生活状況20 (悩みごと)

悩みごと	国名	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン	計	
	地域区分	A		A	B	A	B	A	B	A	人数	百分比
経済のこと		3		2	6	2	16	9	3	-	41	9.4
健康のこと		11		5	7	4	8	16	8	1	60	13.8
身の廻りの世話のこと		4		-	2	1	-	2	-	-	9	2.0
家族のこと		2		2	8	-	4	13	5	2	36	8.3
住宅のこと		2		2	1	3	3	4	1	-	16	3.7
その他		-		-	3	2	-	1	1	3	10	2.3
特にない		59		12	31	16	25	80	24	17	264	60.5
計		81		23	58	28	56	125	42	23	436	100

注1. 本表は重複回答

注2. 未記入を含まず

才68表

家庭生活状況21 (悩みごと・各国合計)

悩みごと		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
回 答 数	経済のこと	-	7	12	13	9	41
	健康のこと	7	14	17	16	6	60
	身の廻りの世話のこと	-	2	4	1	2	9
	家族のこと	5	6	10	8	7	36
	住宅のこと	-	2	2	6	6	16
	その他	1	3	4	-	2	10
	特にない	21	41	71	67	64	264
	計	34	75	120	111	96	436
百 分 比	経済のこと	-	9.3	10.0	11.7	9.4	9.4
	健康のこと	20.6	18.7	14.2	14.4	6.2	13.8
	身の廻りの世話のこと	-	2.7	3.3	0.9	2.1	2.0
	家族のこと	14.7	8.0	8.3	7.2	7.3	8.3
	住宅のこと	-	2.7	1.7	5.4	6.2	3.7
	その他	2.9	4.0	3.3	-	2.1	2.3
	特にない	61.8	54.6	59.2	60.4	66.7	60.5
	計	100	100	100	100	100	100

注1. 本表は重複回答

注2. 未記入を含まず

国名	悩みごとの具体例	国名	悩みごとの具体例	
ペ ル 1 A	1 むすこ夫婦の経済観念が薄い(73才女)	ブ ラ ジ ル A	1.長男であり先祖代々の過去帳を持っているが、子供たちは独立分家し、引きつぎ人がない。焼却することもできずに悩んでいる。(74才男)	
	2 健康が心配(67才男2人)		2.老令化し、庭仕事ができない(77才女)	
	3.住宅のこと(60才男)		3.孫の病気で店を閉めたので収入源がなくなった(78才女)	
	4.妻が永年病気(70才男)		4.病身の子供の将来が心配だ(69才男)	
	5.目が悪い(64才男, 71才男)		5.子供の結婚問題(69才女)	
	6.子供のこと(65才女)		6.財産の配分問題(66才男)	
	7.子供がないので老後が不安(78才男)		7.老後の世話をしてもらいたい(71才女)	
	8.今以上に収入をあげたい(68才男)		8.借家生活より自分の家を持ちたい(68才男)	
9.インフレの高まり(66才男)				
ボ リ ビ ア A	1 経済的に苦しい(60~64才群1)	ブ ラ ジ ル B	1.自由に旅行がしたい(64~60才男)	
	2 住宅の問題(69~65才群2)		2.自分の稼ぎが子供たちの独立資金となり、残らない(74~70才男)	
	3 子供大学生2人の学費(69~65才群1)		3.若い頃の無理がたたり病気に苦しむ(64~60才男)	
	4 健康のこと・不眠症(69~65才群1)		4.神経の病気で身体が不自由(69~65才男)	
	5 健康のこと・目が不自由(79~75才群)		5.遠視と難聴で外歩きは危険(80才男)	
	ボ リ ビ ア B		1.生活の不安定(74才女, 69才男)	6.未婚の子の将来が心配(74~70才男)
			2 高血圧(61才女)	7.娘の結婚生活がうまく行かない(74~70才男)
3 目が少し悪い(76才女)		アル ゼン チ ン A	1.風俗・習慣になやむ(67才男)	
4 妻の病気(61才男)			2.新旧思想のくいちがい(65才男)	
5.子供の結婚問題(64才男, 67才男)			3.妻の病気(69才男)	
6 伴侶が居ない(74才女)				
7 老後のさまざまな不安(61才男)				
パ ラ グ ア イ A	1.気管支炎等で療養中(65才男)			
	2.身体不自由のため介護者が欲しい(61才男)			
	3 自分所有の住宅が欲しい(64才)			
パ ラ グ ア イ B	4.住宅の大修理が必要(79才男)			
	1.生活難1			
	2.農業資金づくり8			
	3.農産物の安価1			
	4.小作する土地がない1			
	5.負債の返済2			
	6.病気3			
	7.日本語のわかる医者が近くに居ない1			
	8 子供の結婚3			
	9.子供の独立1			
	10.子供の日本語教育1			
	1.夫の世話1			
2.住宅資金がない3				

第 6 章 福祉制度の状況

福祉制度を老人ホーム、公的援助、日系団体の援助の 3 点について、それへの認識や活用の状況を解析する。

1 老人ホーム入所希望

才 70 表～才 71 表は、老人ホームの認識と、それに関連する項目を調べたものである。

老人ホームの存在一知っている人が各国合計 82.6% で、その周知度は高い。

入所の希望一知知度が高率であるのに比べ、希望する人は僅か 9.6% に過ぎない。

希望する理由一ベスト 3 は余生を送りたい 35.0%、老令で役に立たない 20.0%、子どもが居ない 10.0% となっている。才 4 位の住宅事情 5.0%、同じく生活が苦しい 5.0% も切実な問題である。

入所を希望しない理由一ベスト 3 のうち、才 1 位の家族と同居がよい 40.5% と、才 2 位の現状で満足している 30.5%、の上位 2 項目で 71.0% を占めている。才 3 位ホームの運営が不備だからは、それより激減して 2.3% と続いている。

希望するホーム像一日系だけのホーム 78.1% でその大半を占め、あとは一般のホームでよい。どちらでもよいである。

歴訪各国からこの数値を裏書きするような発言をよく耳にした。参考までにその若干を紹介しておこう。

ペルーの大学生（日系三世）は「養老院に送られるということは、家族や日系社会の団結が崩れてきたことを意味しないだろうか。老人を除け者にしようとする傾向は感心できない」と、生活共同体の本質論から、老人ホームの利用よりも、家族や日系社会の相互扶助が先行すべきであることを強調している。

パラグアイ・アスンシオン市日本人会幹部は「困窮老人を日系社会で抱えこむ努力はもちろんたいせつだが、それにも限度はある。そんな場合、老人ホームは暗く、しかも窮屈だという先入観があって、孤独老人でも入りたがらない」と、これは入所を希望しない理由の一つである。

ポリビア・サンタクルス市日本人会幹部は「老人ホームはカトリック系のものが国内に 4 施設あるが、日系老人は入所をきらう。日系人と生活環境が違うので窮屈であるという先入感があるからである。日系ホームは作れるものならば作った方がよい。日本人同志であれば楽な気持ちで暮らせるから、希望者も出てくると思う」と、日系老人向けの老人ホーム像を述

べている。

なお、日本老人の場合、老人ホームへ入所意向のある者は、60才以上について単身者で11.4%、老人夫婦のみの世帯で6.6%、その他の世帯で6.3%となっていて、希望率の低さは日系老人と大差ない。(昭和44年5月厚生省社会局・全国老人実態調査)

表70 福祉制度1 (老人ホーム入所希望)

老人ホーム	地域区分	ペルー		ボリビア		パラグアイ		ブラジル		アルゼンチン		計	
		A		A	B	A	B	A	B	A		人数	百分比
その存在	知っている	61	15	32	16	49	115	31	17	336	82.6		
	知らない	14	7	18	6	3	5	11	2	71	17.4		
	未記入	14	1	9	10	4	11	7	4	60	-		
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		
入所の希望	入所したくない	48	13	26	13	42	93	15	10	261	78.6		
	入所したい	9	-	4	1	3	8	2	5	32	9.6		
	わからない	8	1	5	1	3	12	7	2	39	11.8		
	未記入	24	9	24	17	13	18	24	6	135	-		
	計	89	23	59	32	61	131	49	23	467	100		
入所希望の理由	余生を送りたい	1	-	1	1	1	2	1	-	7	35.0		
	老令で役に立たない	-	-	1	-	-	-	-	3	4	20.0		
	子どもが居ない	1	-	-	-	-	1	-	-	2	10.0		
	住宅事情	-	-	-	-	1	-	-	-	1	5.0		
	生活が苦しい	-	-	-	-	1	-	-	-	1	5.0		
	その他	-	-	-	-	-	4	1	-	5	25.0		
	未記入	7	-	2	-	-	1	-	2	12	-		
	計	9	-	4	1	3	8	2	5	32	100		
入所したくない理由	家族と同居がよい	3	6	-	1	19	19	1	4	53	40.5		
	健康	1	-	-	-	-	-	-	-	1	0.8		
	現状で満足	2	1	20	1	15	-	1	-	40	30.5		
	財産がある	1	-	-	-	-	-	-	-	1	0.8		
	ホームの運営が不備	-	-	-	1	-	-	1	1	3	2.3		
	その他	10	-	-	1	2	16	4	-	33	25.1		
	未記入	31	6	6	9	6	58	9	5	130	-		
	計	48	13	26	13	42	93	16	10	261	100		
希望する	日系老人だけのホーム	9	-	4	1	3	4	-	4	25	78.1		
	一般のホーム	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3.1		
	どちらもよし	-	-	-	-	-	4	1	1	6	18.8		
	計	9	-	4	1	3	8	2	5	32	100		

表71

福祉制度2 (老人ホーム入所希望・各国合計)

老人ホーム 地域区分		年 令 群					計
		80才以上	79~75	74~70	69~65	64~60	
人 数	入所したくない	26	43	87	64	41	261
	入所したい	5	7	5	11	4	32
	わからない	6	6	15	8	4	39
	未記入	6	22	29	37	41	135
	計	43	78	136	120	90	467
百 分 比	入所したくない	70.3	76.8	81.3	77.1	83.6	78.6
	入所したい	13.5	12.5	4.7	13.3	8.2	9.6
	わからない	16.2	10.7	14.0	9.6	8.2	11.8
	未記入	-	-	-	-	-	-
	計	100	100	100	100	100	100

2 公 的 援 助

(1) 政府・自治体からの公的援助

表72表・図表18は政府・自治体から受けている各種援助の状況をまとめたものである。ただし、これは日本と当該国との両国からの公的援助が混在した回答となったので、そのつもりで見てもらいたい。

まず目につくことは、各国合計で公的援助を受けていない者が85.5%の高率を占めていることである。それでも受けている者が14.5%存在する。これは各国に散在している。内訳は表1位老人年金48.3%で、他のものを大きく引き離している。しかもこれはブラジルとアルゼンチンの二国に限られていることに注目したい。このことについてブラジル・サンパウロ日伯援護協会小畑博昭事務局長は「福祉部の相談課は、日系移住者の生活安定をはかり、困窮を防ぐ相談助言と補導を行っているが、70歳以上の来訪者が昨年度より減少してきた。その理由はブラジル老令年金申請法が普及してきた現れと考えられる」と語っている。この老令年金はINPS(商工業等の従事者に対する社会保障制)、FUNRURAL(農業者総合保険)によるものである。またアルゼンチン・ブエノスアイレス市郊外で生涯を園芸一筋に打ち込んできたMさん(79才)の「現在、当国から恩給を受けている。掛け金を納めてきたからだ。月額22万ペソになるので、これで老後生活はできる」との述懐も参考になる

なお、表2位の軍人恩給10.0%と、表3位の厚生年金3.3%は日本政府からのもので、

その他若干の項目が少率で並んでいる。ところで、才7表本人の収入源で、年金受給は、90件となっている。そしてブラジル、アルゼンチン以外にも受給者が散在しているが、同種設問に対象者が不揃いの回答をしているためと、了承されたい。参考までに才72表の年金受給件数は、老人年金を含めて38件であることを附記しておく。

(2) 現地当該国に対する援助希望

特にない78.3%は、日系社会の人たちとの接触の中からこの人たちが日本人の名誉にかけて相互扶助精神に徹すべきで、いたずらに移住国への依存を志すべきでないとの考え方が、その不希望理由の中心となっているであろうことを推察してみる必要がある。その反面、援助を受けたい21.7%では、その内訳の圧倒的高率45.6%を各種年金を得たいとの希望が占め、このような経済上の要望に注目すべきであろう。才2位の老人福祉全般11.1%の中には、回答者自身が思い込んでいる至れり尽せりとの日本老人の受益の現状と照らし合わせて、それへの羨望の念を含ませている事実もあることを忘れるわけにはいかないであろう。

そこでこのことに関連があると思われる現地の意見を紹介しておこう。ペルー・リマ市で才2回調査団は日系各団体合同の集まりで意見交換をした。その折の一世側の発言の一部「海外に居ても日本人としてのほこりを持ち続け、日本の国籍を保有している一世の人たちの心情を考えてもらいたい。本国から温かい処遇が与えられるよう望みたい。このことは移住者に施しをするという姿勢でなく、日本人の権利として本国の老人同様に配慮され、対応してほしいという願いである」と、現地当該国へは依存しないという声のうらに本国への希望がこの78.3%にこめられていると推察できるのではなからうか。しかもこの意見交換のあとで「本日の各人の発言にわが儘が出たことを許容してもらいたい。このことは本国から二度にわたる調査団が派遣されてきたので、今までだれもが表面に出さないうでいた心のなかのものを outs させてもらったということであると理解してほしい」と言い足している。この現地側の心情をこの特にない数値から了解しよう。

3 日系団体の援助

(1) 日系団体からの援助

才73表・図表18は日系団体から援助を受けたことがほとんどない現実の姿を示している。各国合計で受けたことがない96.7%、受けたことがある3.3%となっている。受けた援助項目は、敬老会でなにかの援助を受けたと思われるものがポリビアとブラジルに1件ずつ、無料検診がブラジルの3件(サンパウロ日伯援護協会2件、アマゾン日伯援

護協会1件)、国際協力事業団からの資金融資がそれぞれパラグアイとブラジルの営農地で1件ずつ。その他がアルゼンチンを除く各国1件から3件で7件となっている。

以上でわかることは日系社会の援助姿勢がことのほか稀薄であるということである。

(2) 日系団体に対する援助希望

まず一世老人の告白を紹介してみよう。ペルー・デサンパレード養老院で行った在院日系老人との座談会から一老人側出席者全員の26名。

「中央日本人会から月100ソールの小遣いをいただき感謝している」

「過去は過ぎてしまったことなので、今さら人に話しても仕方がないことだ。話したからといって昔が戻ってくるわけではないし、死んだつれあいが生き返ってはくれない。しかしほんとうに話をきいてくれるなら、喜んで身の上ばなしを語りたい」

この二つの発言の一つは日系団体の救援活動に対する感謝の念を表わしているし、もう一つは、話しても仕方がないことだと不希望の理由が表われているうちにも、だれかに話をきいてもらいたいとの深層心理がのぞかれるのである。(注、ペルー中央日本人会は、1917年の創設で、そのうちの救済部は現在 ①日系困窮者の生活援助 ②老人ホーム、慈善病院への身寄りのない困窮者をあっせん ③困窮者への見舞い ④困窮死亡者の葬儀一切引受け ⑤身寄りのある困窮者の日本帰国援助、で活躍している。(部員14名。中高令者を中心に構成され、すべて本業の余暇を割いたボランティアとして活動している。)

また、パラグアイ・アスンシオン市日本人会幹部は「地区毎に日本人会の組織がある。連合会組織も一応はできているが、あまり活発ではない。孤老などを対象とする救援活動に見るべきものがない。老人問題が表面化していないといえはそれまでだが、日本人会幹部の手が足りないこともある」と述べている。

ペルーの例のように、感謝されるほどの活動をしながらも、話しても昔が戻ってくるわけでもないと、その活動に批判的な見方をしている対象老人も居るし、一方ではパラグアイの例のように、日本人会の救援活動が弱体であるといった幹部自身の告白もある。その他の国の日系団体の活動もこの二つの事例と大同小異であろうと考えられるが、以上のことを背景として表73表に表われている日系団体に対する希望を見よう。

特にない717%は、前記デサンパレード養老院での発言を想いおこさせる数値であるが、ここでは望みたい28.3%の内訳にふれることにする。ベスト3は医療の無料化11.4%、医療施設の充実11.4%、老令年金支給9.6%、老人センター設立6.1%で、その他盛り沢山の希望項目が見られる。これをすべて老人福祉阻害の三大元凶としての経済力の衰退、健康の老化、人間関係の疎外からの脱出を念願するものであることが了解できる。